

令和6年度

第57回 大分県公立学校教頭会研究大会

玖珠郡大会

# 研究録57

令和6年8月9日



豊後森機関庫公園（玖珠町）



九重“夢”大吊橋（九重町）

大分県公立学校教頭会

## 第57回 玖珠郡大会「研究録57」の発刊に寄せて

大分県公立学校教頭会

会長 戸次弘子

開催前日の夕方、突然の地震。日向灘を震源とする県内でも最大震度5弱の揺れの中、ふと「明日の大会は開催できるのだろうか」と不安が過ったことを思い出します。この地震に加えて、先日の台風10号においても被害に遭われた方々に心よりお見舞い申し上げます。

さて、現代は「Society5.0」時代、先行き不透明な「予測困難な時代」といわれています。このように社会の変化のスピードが加速するとともに、個々の価値観が多様化している現代社会を生きている今の子供たちは、変化に適応することはもちろんのこと、様々な情報を取捨選択し、時には批判的に考えながら、新しい価値を見いだしていく力が求められています。

大分県においても令和5年度末をもって「芯の通った学校組織」推進プラン第3ステージの区切りを迎え、これまでの学校改革の進捗状況等を踏まえ、「芯の通った学校組織」の取組を「学校マネジメント」と「学校マネジメントを活用した取組（学校マネジメントを活用して学校の諸課題を解決する取組）」の2段階構造として再整理の上、「学校マネジメント」推進指針が策定されました。また、その具体的な取組として、①授業改善の徹底②体力向上の推進と健康課題への対応③いじめ・不登校対策等の推進が示されています。

このように多様化した中、第57回大分県公立学校教頭会研究大会玖珠郡大会は、〈自立・協働・創造〉をキーワードとする第13期全国統一研究主題「未来を生きる力を育む 魅力ある学校づくり」の2年次として、記念講演と5課題10分科会において各2本の提言をもとに学習を深めることができました。また、何といたっても5年ぶりに参集型の大会が実施できたことで、各郡市での特色ある取組の様子を幅広く知ることができました。また、勤務校の規模が違ってても副校長、教頭職としての課題や悩みは同様で、特にグループ討議の中では共感し合うことも多くありました。そして今後の職務において、さらに自分自身の人間性や創造性を高め、児童生徒により良い教育を行うことの大切さを感じました。

また、全体会での記念講演では『童話の里で考える教育の原点』という演題で久留島武彦記念館の金成妍（キム・ソンヨン）館長にお話しいただきました。金館長ご自身の経験を取り上げながら日本のアンデルセンと呼ばれている「久留島武彦」の研究を通して玖珠町に辿りつき、今日に至るまでに久留島作品から学んだ「生きた教育」について、映像とともに話ししてくださいました。改めて「教育の本質」について考えさせられ、教職員としての職責について多くの示唆をいただきました。

最後になりましたが、本大会開催にあたり、細部にわたって準備され、真心のこもった運営を行っていただいた玖珠郡教頭会の皆様に心よりお礼申し上げます。

また、公務ご多用の中ご指導ご助言を賜りました、大分県小学校校長会、大分県中学校校長会の皆様ならびに関係諸機関・諸団体の皆様より多大なご支援をいただきましたことに深く感謝申し上げます。「研究録57」の発刊のご挨拶といたします。

# 目 次

- 1 玖珠郡大会 開催要項 1
- 2 玖珠郡大会 分科会各担当一覧 2
- 3 記念講演 「童話の里で考える教育の原点」 4～6  
久留島武彦記念館  
館長 金 成妍 (キム・ソンヨン) 氏
- 4 記念講演の感想 7～11
- 5 分科会記録

## ■■■ 教育課程に関する課題 ■■■

### 【第1A分科会】 12～13

川添地区における地域との学びの連携と協働を深めるために  
～地域の自然や人材を活用した教育活動の見直しを通して～  
大分市立野津原小学校 小 倉 春 男

学力向上に向けた教育課程の工夫・改善  
～学校の組織的な授業改善～  
佐伯市立鶴見中学校 足 立 盛 一

### 【第1B分科会】

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた極小規模校における授業改善  
～ガイド学習を通してめざす子どもを中心に据えた授業づくり～ 14～15  
佐伯市立米水津小学校 益 田 亮

「実践力」をはぐくむための計画的・継続的な取組  
～小中一貫教育の推進と学校運営協議会の連携を通して～  
大分市立南大分中学校 戸 次 弘 子

## ■■■ 子どもの発達に関する課題 ■■■

### 【第2A分科会】 16～ 171

困りを抱える児童を中心に、どの子どもも安全・安心な  
「みんなが笑顔の豊洋っ子」を育成するための組織的取組、それに向けた教頭の役割  
杵築市立豊洋小学校 宮 原 朋 瑚

様々な課題を克服するための支援の充実  
～不登校の未然防止をめざす組織的な対応を実践する学校づくり～  
大分市立滝尾中学校 中 小 百 合

【第2B分科会】

18～19

特別な配慮を有する児童の対応と校内体制の在り方

～関係機関と連携した子どもの居場所づくり～

大分市立賀来小学校 姫嶋公彦

支援を要する生徒への組織的な対応と教頭としてのかかわりについて

～校内支援体制づくりと保護者との連携～

国東市立志成学園 西村光博

■■■ 教育環境整備に関する課題 ■■■

【第3A分科会】

20～21

小中一貫教育の推進における環境整備及び体制づくり

～小中一貫教育における取組を通して～

豊後大野市立犬飼小(中)学校 甲斐敬人

学校教育目標達成に向けて教頭として学校の教育環境整備にどう取り組むか

宇佐市立西部中学校 尾形義和

【第3B分科会】

22～23

「ミドル・アップダウン・マネジメント」を実現させるための

教育環境整備に関する教頭の役割

中津市立三郷小学校 笹島大幹

学校教育目標「未来社会を創造する基礎力を身につけた生徒の育成

～「夢実現『3C』：Chance Challenge Change」の実現を目指して～

竹田市立緑ヶ丘中学校 内川和徳

■■■ 組織・運営に関する課題 ■■■

【第4A分科会】

28～29

持続可能な働き方の実現と教頭(教頭会)の役割

～実践の共有と二学期制への移行の取組を通して～

津久見市立堅徳小学校 山本宏

若い教職員の組織的な人材育成の在り方

別府市立上人小学校 佐々木雅子

【第4B分科会】

30～31

「働き方改革」における教頭の役割とは

～教職員が笑顔で児童と向き合うための時間をどうつくり出すか～

臼杵市立臼杵南小学校 中川かおり

地域とともに歩み続ける学校であるための教頭の役割

～本場鶴崎踊大会の取組を通じた持続可能な連携をめざして～

32～36

■■■ 教職員の専門性に関する課題 ■■■

【第5A分科会】 32～33

教職員の専門性を活かした資質・能力向上を図るための取組について  
豊後高田市立河内小学校 安 藤 絵 里

教職員の防災に対する危機管理能力向上のための取組  
～子どもたちが“自分ごと”ととらえて行動する防災訓練の実施に向けて～  
日田市立津江中学校 佐 藤 武 吉

【第5B分科会】 34～35

クラウドを使った情報の共有化は、働き方改革につながっていくのか  
大分市立東植田小学校（前任校・玖珠町立塚脇小学校） 工 藤 勇 造

「働き方改革に繋げる」運動部活動指導体制の一考察  
～校内合同運動部活動の取組～  
中津市立緑ヶ丘中学校 大 江 堅 志

6 参加した分科会の提言について、意見や感想、参考になった点など

令和6年度

## 第57回大分県公立学校教頭会研究大会玖珠郡大会

### 開 催 要 項

#### 「未来を切り拓く力を育む 魅力ある学校づくり」

趣 旨 全国及び九州地区公立学校教頭会共通の第13期研究主題「未来を切り拓く力を育む 魅力ある学校づくり」キーワード〈自立・協働・創造〉を受け、本県における教育課題とのかかわりの中で、変革期の教育のあり方やそれを創造する教頭のあり方を究明し、教育課題解決への最善の方途を探求する。

主 催 大分県公立学校教頭会

後 援 大分県教育委員会  
大分県小学校長会  
九重町  
玖珠町  
日田市  
大分県PTA連合会  
公益財団法人日本教育公務員弘済会大分支部  
大分県市町村教育長協議会  
大分県中学校長会  
九重町教育委員会  
玖珠町教育委員会  
日田市教育委員会  
一般財団法人大分県教育会館

期 日 令和6年8月9日(金)

会 場 [全体会] くすまちメルサンホール ☎0973-72-0601  
[分科会] 玖珠町立くす星翔中学校 ☎0973-72-7007

駐車場 玖珠町内各所

日 程 [全体会]  
9:10~9:40 受 付  
9:40~10:10 開会行事  
10:20~11:40 記念講演  
演題『童話の里で考える教育の原点』  
久留島武彦記念館  
館長 金 成妍(キム ソンヨン)氏  
11:40~13:10 昼食・休憩・移動  
12:40~13:00 分科会事前打合せ会  
[分科会]  
13:10~16:20 分科会(閉会行事も含む)



## 第57回大分県公立学校教頭会研究大会玖珠郡大会 分科会担当一覧

課題	分科会	研究主題	種別	提 言 者			司 会 者	
				郡 市	学 校	氏 名	学 校	氏 名
1	A	教育課程に関する課題	小	大分市	野津原小	小倉春男	別保小	今久保和也
			中	佐伯市	鶴見中	足立盛一	上堅田小	齋藤秀幸
	B		小	佐伯市	米水津小	益田亮	東雲中	伊東伸一郎
			中	大分市	南大分中	戸次弘子	判田中	後藤賢治
2	A	子どもの発達に関する課題	小	杵築市	豊洋小	宮原朋瑚	大田小	吉岩謙
			中	大分市	滝尾中	中小百合	大在中	植木弘晃
	B		小	大分市	賀来小中学校(小)	姫嶋公彦	東大分小	丹生悦雄
			中	くにさき地区	志成学園	西村光博	国東中	大村隆幸
3	A	教育環境整備に関する課題	中	豊後大野市	犬飼小(中)	甲斐敬人	清川小(中)	加藤博
			小	宇佐市	西部中	尾形義和	北部中	児島誠一郎
	B		小	中津市	三郷小	笹島大幹	今津小	川野和弘
			小	竹田市	緑ヶ丘中	内川和徳	竹田南部中	多田智哉
4	A	組織・運営に関する課題	小	津久見市	堅徳小	山本宏	津久見小	村山太亮
			中	別府市	上人小	佐々木雅子	鶴見小	中山香代
	B		小	臼杵市	臼杵南小	中川かおり	臼杵小	上山智之
			中	大分市	鶴崎中	坪根恭平	大東中	矢部勝徳
5	A	教職員の専門性に関する課題	小	豊後高田市	河内小	安藤絵里	白野小	徳本修
			中	日田市	津江中	佐藤武吉	東部中	伊藤淳
	B		小	玖珠郡	東植田小	工藤勇造	北山田小	土岐崇
			中	中津市	緑ヶ丘中	大江堅志	緑ヶ丘中	前田育彦

研究主題「未来を切り拓く力を育む 魅力ある学校づくり」(2年次)  
 キーワード〈 自立・協働・創造 〉

記 録 者		指 導 助 言 者		運 営 委 員 ・ 協 力 者		参 加 数	分 科 会 場
学 校	氏 名	所 属	職・氏 名	学 校	氏 名		
坂ノ市小	東 秀 樹	鶴 崎 小	校 長	淮 園 小	梶 原 千 恵	36	多目的ホール
鶴岡小	福 田 美 和		重 松 弘 樹	由布院小	山 崎 宗 治		
八幡小	藤 原 宏	佐伯南中	校 長	光岡小	諫 山 裕	31	3年多目的 ルーム
王子中	河 野 康 平		小 野 寛 也	碩田学園	柴 尾 則 子		
大内小	池 田 利 恵	山 香 小	校 長	このえ緑陽中	佐々木幸哉	34	3年1組 教室
城南中	森 竹 友 恵		奥 野 教 志	滝尾小	佐 藤 賢 次		
荏隈小	藤 原 隆 史	国 見 中	校 長	前津江小	藤 野 和 也	30	3年3組 教室
姫島中	佐 藤 智 美		末 綱 文 雄	森中央小	穴 井 一 男		
大野小(中)	玉 田 聡	菅 尾 小	校 長	東飯田小	松 本 淳	34	美術室
院内中	土 谷 晶 子		衛 藤 浩	三佐小	黒 木 貴 充		
樋田小	花 畑 克 典	竹 田 南 部 中	校 長	大明中	河 野 剛	33	2年多目的 ルーム
直入中	伊 藤 貴 信		渡 部 公 比 古	大在東小	武 吉 准 史		
青江小	三 宮 一 晃	石 垣 小	校 長	野 矢 小	酒 井 智 美	34	2年1組 教室
春木川小	稗 田 雅 子		勝 河 馨	吉野小	奈 良 俊 輔		
下南小	木 村 公 治	原 川 中	校 長	東 溪 小	財 津 悦 子	34	2年3組 教室
竹中中	安 部 直 子		河 野 剛	横瀬西小	後 藤 茂		
高田小	糸 永 珠 里	草 地 小	校 長	飯 田 小	森 敬 一	32	音楽室
大山中	末 史		上 野 喜 句 子	大在西小	上 田 哲 也		
南山田小	田 辺 涼 子	東中津中	校 長	石 井 小	松 原 圭 一 朗	35	1年多目的 ルーム
豊洋中	山 本 哲 也		田 邊 玲 子	小佐井小	池 邊 隆 雄		



## 記念講演

### 演題

# 『童話の里で考える教育の原点』



## 講師 金 成妍 (キム・ソンヨン)

韓国の釜山生まれ

九州大学大学院比較社会文化学府・日本社会文化専攻修士課程、博士課程を修了  
博士号取得（文学博士 2008）

第48回(2008) 久留島武彦文化賞受賞（外国人初、最年少受賞）

第34回(2010) 日本児童文学学会奨励賞（外国人初、最年少受賞）

第39回(2016) 巖谷小波文芸賞・特別賞（最年少受賞）

第81回(2022) 西日本文化賞奨励賞（社会文化部門）

### 職歴

立命館アジア太平洋大学、福岡女学院大学、長崎県立大学、久留米大学、福岡教育大学非常勤講師  
(2004～2016)

日韓経済研究所 専任研究員（中小企業博覧会開催企画担当 2008～2010）

日韓インターンシップ協会 事務局(2007～2010)

国際通商貿易戦略研究院 専任研究員(2010～2015)

玖珠町立 久留島武彦研究所 所長(2012～2016)

立教大学 特任研究員(2016～現在)

佐賀女子短期大学 現代韓国文化研究センター 学外研究員(2019～現在)

現在

2017年4月から 玖珠町立久留島武彦記念館 館長

### 著書

『比較社会文化叢書16越境する文学』（花書院 2010）

『スマート韓国語（初級）』（白帝社 2013）

『風光る一巖谷小波俳句・俳画選集』（Only for you 2016）

『久留島武彦評伝—日本のアンデルセンと呼ばれた男—』（求龍堂 2017）

『巖谷小波おとぎの世界』（求龍堂 2020）

『チャンスはハゲおやじ—久留島武彦の心を育てる名言集—』（梓書院 2020）

令和6年度

第57回大分県公立学校教頭会研究大会記念講演

## 「童話の里で考える教育の原点」

金 成妍（キム・ソンヨン）氏

【久留島武彦記念館館長】

久留島武彦記念館からまいりました。「キム・ソンヨン」と申します。当館は開館当初から、韓国人の女性が玖珠初の町立博物館の初代館長になったことが話題となり、各メディアにも取り上げていただきました。どうして韓国人が今、ここにいるのでしょうか。そのような疑問を持つ方もいらっしゃると思いますので、まず自己紹介を兼ねて、私の話から述べさせていただきます。

私は日本から一番近い国、韓国、中でも釜山という所で生まれ育ちました。釜山の中でも私の故郷は、「海雲台」と書いて「ヘウンデ」って呼ぶところです。海雲台で海雲台女子中学校、海雲台女子高校を出ました。釜山で高校を出て、それから慶州で大学を出ております。そこで初めて日本語を勉強することになりました。ある日、非常勤講師だった日本人の先生が入ってきたんです。その先生が黒板に大きな木の絵を描くんです。それから言ったんです。「皆さん、木から一度落ちてしまった葉っぱは、二度と木に戻すことはできない。そのため日本人は言の葉と書くんですよ」と。その瞬間が、私が日本語に心を奪われた瞬間だと思います。なんて美しい、奥深い言語かなと思ったんです。

その後、日本に留学に来て、九州大学大学院に進学しました。修士課程を経て博士課程に上がった時のことです。学校の正門前で指導教官の花田俊典先生にばったり会いました。「ソンヨンにあげようと本を持ってきたよ」と、脇に抱えた本を手渡してくださったんです。明治時代の古い文字で読めないんです。「あ、ありがとうございます」ってちらっとめくってみて、いつかこんなのが読めたらいいなぐらいで置いてたんです。その2日後。私に本をくださった花田先生が心筋梗塞で急逝しました。先生の葬式が終わって、家に帰って、「あ、そういえば先生が私に本をくれたな」と思って、本棚からいただいた本を出してみたんです。久留島武彦っていう人の追悼集と童話集でした。そこで始めて「久留島武彦」の名前を知りました。調べたら、大分県の玖珠町に久留島記念館というのがあるというんです。天神から高速バスに乗って初めて大分県に来ました。2004年6月のことです。町には童話の里という看板はあるけど、どこを見ても童話の里らしきがない。久留島武彦の銅像一つない。地元の人でも大事にしてない人を、どうして先生は私に教えてくださったかなと思ったんです。きっと理由があるんじゃないかなとも思ったんです。九州大学の図書館や東京にある国立国会図書館に行って、久留島武彦に関する全ての資料に目を通しました。すごい人だなということが分かりました。だけど、きちんとした学術論文がない、研究者がいない。ああ、私にこれを研究しなさいという先生からの最後の宿題かなっていうふうに思いました。

そうやって古い新聞や雑誌を一枚ずつめくって久留島の年表を作って、久留島が書いた文章を集めて。そうやって、久留島を含む日本の近代で活動した児童文学者たちが朝鮮に来て活動した内容を基に博士論文を書きあげました。この論文が優秀論文に選ばれて、九大から本になりました。日本青少年文化センターから久留島武彦文化賞も受賞しました。恩返しのため久留島について原稿を書いて『西日本新聞』に送ってみたんです。そしたら大きく載せていただきました。それが2008年

12月のこと。その新聞記事を見て、玖珠町から電話があり、玖珠で講演をしました。それから講演依頼がたくさん来るようになって、玖珠町内の小、中、高校、役場、土木事務所まで行きました。当時は講演が終わると必ずアンケートをとりました。「今日の講演で一番印象に残ったことは何ですか？」という質問に対して、一番多かった答えが、「久留島武彦が玖珠出身だということ」でした。知らなかったんです。それで私は講演に行くたびに言うようになりました。玖珠町が「童話の里」という看板を挙げてるのであれば、この童話の里を大きな木にたとえてみます。童話の里という木には日本一おいしい米とか、しいたけ、豊後牛、日本童話祭、ジャンボこいのぼり、機関庫などがありますが、これは枝です。真ん中に久留島武彦っていう基軸をきちんと立てないと、童話の里として成り立たないんじゃないですかということを行ったんです。そしたら一人、二人と頷く方が現れて、久留島武彦に特化した記念館を作ろうという署名運動まで起こって、それでも、7年ぐらいかかりましたけど、ようやく出来たのが久留島武彦記念館です。この記念館はですね、小さいけど10種類の部屋を設けて、お客さんが来たらスタッフが丁寧に館内案内をしながら各種の部屋を巡って久留島先生のことを楽しく学ぶ、そういうことをコンセプトにしています。

数年前『西日本新聞』で私のことがコラムに連載されたことがあります。「聞き書きシリーズ」に「ソノヨシ一直線」というタイトルで99回連載された後、本にもなりました。私の目線で日本の文化、文学、児童文学、久留島武彦などを追っていく。記念館が出来上がるまでの道のりが全て込められています。この本の帯には、亡くなった花田先生の言葉を載せていただきました。「清新な光景に出会うためにそれぞれの場所で戦おう」という言葉です。自分が今、どこにいるかを自覚して、今いる場所で頑張る。頑張ったものにしか見えない光景があるのです。私に見えてきた光景は、この「久留島武彦」です。詳細なことは『久留島武彦評伝』（求龍堂）をぜひ一読ください。

お話を頼まればどんな所へでも出かけていく。子どもがいるところであれば、馬の背にまたがり、自転車のペダルを踏み、バスや汽車や船に乗って行きました。この一枚の写真をご覧ください。山道を歩いている姿です。後ろの人、黒板を担いでこの険しい山道を歩いています。つまり、黒板もないようなところに、山を越えて、川を越えて行くわけなんです。だんだん足腰が弱くなると、かごに乗せてもらって、かごがないところだとおんぶしてもらって会場に向かいました。そうやって亡くなる2ヶ月前まで杖に支えられて、講演を続けました。久留島先生は「身動かざれば心働かず」という言葉を残しました。行動しないと感動は生まれえないということです。そうやって久留島先生は70歳の年に1年間460回、亡くなる1年前である85歳の時に1年間110回の講演をこなしました。正確に把握出来ただけで、200万人以上の人に童話を語り聞かせています。

昭和35年4月29日、久留島先生は横浜の小学校の演壇に立ちます。そこで最後に語ったお話がこれです。「人は教育によって初めて人間になる」。きょうの演題が何だったのか覚えていますか。「童話の里で考える教育の原点」でした。久留島武彦を語る際、私はいつもこの漢字を思います。「人」という漢字です。人という漢字は、人と人が力を合わせてとかじゃないんです、皆さん。1人が横に立っている姿が人っていう漢字の起源です。天と地の間で、一人で立っているのが人間なんです。いくら家族がいようと友だちがいようと、その人は一人しかいません。その一人が、一人としてきちんと生きて、生きて、生き続けるためには、この久留島先生の見せてくれた「行動力」と「継続力」を身に付けること、何があろうが生き続ける力、生き抜く力を身に付けること、それが「教育の原点」ではないかと、私は思いました。

ご清聴、ありがとうございました。



## 記念講演の感想集

記念講演「童話の里で考える教育の原点」

講 師 玖珠町立久留島武彦記念館 館長 金 成妍 氏

- 玖珠で、講師の方の話が聞けたのは感無量です。聞き入りました。講師の生き様に感銘を受けました。とても面白くタメになった講演ありがとうございます
- とてもよい講演だった。きちんと演題に沿った内容でありながら、たくさんのエピソードを紹介していただき、あっという間に時間が過ぎてしまった。久留島先生の情熱や偉大さを端的に述べることのできる金先生はすごい方だと思う。
- 講師の方のバイタリティと行動力の凄さを感じました。話に惹きつけられ、あっという間に時間が経ってしまいました。
- 久留島武彦さんの思いを引き継ぎ、教育実践をしていきたいと思いました。
- 地域の人材や資源を、学校に生かしていくには、まずどこからどのような切り口で取り組んでいけばいいのか、考えさせられました。地域とともにある学校のありかたを考えさせられながら学んだ時間となりました。
- 館長として久留島武彦さんの偉大さを多くの人びとに知ってもらおうと熱意をもった取組に感動しました。
- 教育における童話の活かし方がわかった。
- 久留島武彦の信じ合うこと 助け合うこと 違いを認め合うという考え方は 学級経営にとっても参考になる考え方だと思った。
- 韓国人の金先生がなぜ日本の童話の世界の研究者なのか、館長なのか、とても良く理解できた。とてもふさわしい方だと思った。
- 一人の人間の生きた道を多くの人に伝えるという一大事を成した方のお話は、とても興味深く、新たに学びたいという意欲をもたらすものでした。
- 情熱が人を惹きつけるのだと思いました。また聴きたいと思える講演でした。
- 純粋な思いが直に伝わってくる、とてもいい話だった。
- 童話の里である理由などが金さんの熱心な研究によって明らかになったことなど本当によくわかりました。また、スライドの写真なども見やすく大変勉強になりました。玖珠に興味を持ちました。
- 大分県郷土の人物の洗い出し等、まだまだ知らないことが多く勉強になった。
- 講師の方のパワーに圧倒された。素晴らしい生き方をされていると思う。
- キム館長のような方が、大分県にいてくれて嬉しいです。大変勉強になりました。
- 「身動かざれば、心働かず」。何事もまずは、動いてみようと思えました。
- 素晴らしい講師の選定をありがとうございました。もっともっと多くの教職員に聴いてほしいお話でした。あまりに知らないことが多く、日本人として恥ずかしい気持ちにもなりました。購入した金先生の本をゆっくり読みます。
- 金先生の久留島への思い、日本文学の学び、玖珠郡への功績、どれをとっても情熱を感じました。また、人を大切にする姿、学び続ける姿、あきらめない姿は、我々教師が見習っていかなくてはならない姿であり、ぜひ子どもたちへも伝えていきたいと思えます。大変素晴らしい講演をありがとうございました。
- 行動力継続力が生き抜く力になるという言葉をはじめ心に刺さるお話がとても良かったです
- 講師の取組に対するエネルギーを感じ、エネルギーをもらいました。
- 素晴らしく内容の充実した講演会でした。あっという間に終わりました。金さんの生き様や久留島武彦のことなど、学びが多くありました。
- キムソンヨン先生の久留島武彦との出会いには感銘を受けました。偶然の必然のようなものや出会いの大切さを感じました。また、久留島先生の偉大さを知りました。ありがとうございました。
- 金 成妍さんの記事は新聞でよく見かけていました。今回、実際に話を聞くことができよかったです。
- 講師の方のエネルギーを感じることができた。自分の子が小さければぜひ一度は記念館に連れて行ってみたいかったです。
- 久留島武彦氏の考えを初めて知りました。教育者として尊敬します。また、金氏の圧倒的な努力と行動力にも魅かれました。お二人の生き方にふれ、学びの多い講演会でした。
- 久留島武彦がどんな人物か、また金先生がどんな研究をされたか知ることができて、勉強になりました。
- 何かを成し遂げる方は、一途な気持ちを持ち続けることができる人であり、人を大切にできる人であるということが再認識できるよい講演であった。また人生の分岐点はどこにあるのかわからないということ…そして学習することの大切さが伝わるものであった。
- 教育者としての久留島武彦を知ることができてよかった。
- 人とのつながりを大切にできる子どもたちを育てたいと思った。

- ソン先生の行動力、決断力、企画力、向上心に大変勇気をもたらしました。
- 講師の方、久留島武彦さんに、とても興味がわいた。ぜひ、著者や童話を読みたい。
- 久留島さんのこともよく分かり、とても良い講演でした。
- 人づくりは、教育でが、心に響いたし、館長の学ぶ姿勢に心打たれた。
- 私も教育者として、原点を意識して進みたいと思いました。
- 金さんの情熱に感動しました。まちづくり、学校づくりに、軸が大切と感じました
- 教育の原点について考えることができました。
- 教育者としてできることは、まだまだたくさんあると気づかされました。
- 講師の方の熱い情熱に刺激をいただいた。ありがとうございました。
- 教育の原点…なるほどと思いました。以前玖珠に住んでいましたが、ここまで久留島武彦さんのことを詳しくは知りませんでした。よかったです。
- 久留島武彦さんや記念館について初めて知りました。金さんの著者も読みたいと思いました。
- 思いを突き詰めて行く姿に感動しました。思いを大切に学校に活かします。
- 人を育てることが教育という言葉が心に残っています。
- 「清新な光景に出会うために、それぞれの場所で戦おう。」という言葉が心に残った。ソンヨン館長と久留島武彦さんの行動力を見習って、私も一直線に行きたいと思った。
- 最後に話された、何度も来てもらえるための工夫というところに惹かれました。不登校傾向の子どもたちには次も来たいというこの視点が必要だということとつながって考えることができました
- 玖珠での勤務経験もあり、久留島さんのことも知っていたが、その記念館になぜキムさんが館長としてみえられたのかを知れて良かった。玖珠のことがまた好きになった。
- 久留島武彦さんの功績とともに金さんの情熱に感銘を受けた。自校の図書館に本があるか、確かめて、子どもたちにも広めたい。
- 金さんの生き方に感銘を受けた。資料館にぜひ行ってみたいと感じた。スローガンだけ、名ばかり、になることが学校現場でもあるが、深掘りし、みんなを巻き込んでいくエネルギーに、圧倒された。
- キムさんが、何故玖珠町の久留島武彦記念館の館長になられたのか、また、久留島武彦を世界に、もちろん国内に広める活動をされていることを知りました。
- 先生の瞬発力、行動力、探究心…感動しました。そして、純粋な気持ちがいろいろな出会いをチャンスにつながっていったのだと思いました。ありがとうございました。
- 今の学校教育で大切にされていることは、久留島先生の時代から変わっていないと感じた。
- 大変エネルギーッシュな方で、本校でも是非ともご講演いただきたいと思いました。
- とても興味深く、また勇気ももらう話だった。
- 講師の方の情熱が伝わると同時に、教育の原点についての考えを深めることができました。
- 教育の原点についてよかったです
- キムさんの情熱や行動力がストレートに伝わり、刺激を受けた。
- 久留島武彦さんについては深く知らなかったが、今回の講演で興味を持つことができた。韓国の方に大分の偉人に興味を持ってもらい嬉しかったが、大分生まれの私がいまだにあまり知らなかったことは考えさせられました。
- 金さんの熱意に本当に感動しました。ひとつのことを突き詰める凄さとその成果を感じました。
- 信念を持って人を育てることが大切だと実感しました
- 身動かさざれば心働かずの言葉が胸に響きました
- パワフルな学びを感じました。
- 童話を通した子ども育ての温かさを感じました。明治の時代から学校と家庭、地域の連携の必要性を唱えていた来留島先生の偉大さを感じるとともに、その大切さをあらためて考えさせられました。帰りに久留島先生の絵本と名言集を手に入れ、明日からの教育実践に力をいただいた気がします。
- 玖珠の宝である人物の魅力とそれを生かした地域貢献、作品の魅力がよくわかった。
- 久留島武彦先生の紹介が中心で、学校づくりとつなげにくかった。
- 久留島武彦さんについては、だいたいのことしか知らなかったのですが、金さんが玖珠町で勤務することになった経緯等聞けて新たな学びにつながった。学校現場とは少し離れた違った視点から、教育について考えることができた。
- キムさんの久留島武彦愛が溢れる講演でした。
- 記念館を運営するために、様々な戦略をたてていることが参考になりました。"
- もちろん、久留島先生の教えは素晴らしいが、それに心酔し、自らが「伝道師」となって多くの方に知ってもらおうとする金館長も素晴らしいと思いました。
- 久留島武彦さんのことをよく知らなかったのですが、記念館に行っ、実際に見たり聞いたりしたいとおもいました。また、人権童話について初めて知った、読んで、子どもたちに伝えていきたいと思いました。
- 以前にも講演を拝聴したことがあったが改めて興味深く、それぞれの地域の偉人について学習する機会を学校に取り入れるべきだと思った
- 久留島さんの生い立ちや、金さんがなぜ記念館の館長を始めたか知ることができた
- あっという間に時間がたちました。講師のバイタリティや道を切り拓く力、探究心は、人として見習いたいと思いました。素敵な講演をありがとうございました。
- 金さんがなぜ、玖珠に来たのかずっと疑問だったので、はっきりとわかりました。その上で、教育の原点について考えさせられました。智さんが出てきたのも嬉しかったです。

- 物事に向かうときの熱意の大切さを改めて考えさせられた
- 久留島武彦さんのことをあまり知らなかったのもっと知りたいと思いました。しかし、それ以上に、ソンヨンさんの学ぶ姿勢、追求する熱意に圧倒されたというのが正直なところです。元気でやる気をいただくことができました。ありがとうございました。
- 久留島武彦について知ることができたのもよかったし…講師の方のバイタリティのすごさも感じた。
- 久留島武彦先生について深く学ぶことができ、教育に向き合う姿勢を正されました。
- 一つのことを徹底的に掘り下げて調べる先生の姿勢に感銘を受けました。
- 子どもの心を育てる強い信念を持つことができました。
- 教育の素晴らしさについて改めて感じました。コンセプトをしっかりと持って自分ができることを一生懸命やっていくことの魅力を再認識できました。ありがとうございました。
- とても引き込まれる講演だった。
- ぜひ一度、記念館には行ってみたいと思う。
- 金さんの行動力に驚き、感心しました。
- キム・ソンヨン先生の故 久留島先生への並々ならぬ情熱やその功績にすごく感銘を受けました。近いうちに記念館を訪れてみたいと思いました。本当にありがとうございました。
- 金先生が私たちの主旨を的確にご理解くださって、教職のあり方とリンクしたご講演をしてくださいました。とてもありがたかったです。
- 元気の出るお話で良い機会でした。
- 興味深く聞かせていただきました。
- 講演を聞くのは今回で2回目でした。久留島武彦記念館に対する熱意がとても伝わってきました。
- キムソンヨンさんのエネルギーがすごいいました。とても話が上手で楽しく聞かせてもらいました。ありがとうございました。
- 面白くて聴きやすかったです。元気が出ました。
- とてもよかったです。
- 追究意欲に驚かされた。
- 偉大な先人の魅力を広めるために様々な工夫をなさっていることや、金さん自身が学び続けてきた姿勢に感銘を受けました。
- 思いの具現化の為の行動力は、大変刺激になりました。
- 真剣な仕事や生き方に感銘を受けました
- 話に引き込まれあつという間の講演会でした。
- 久留島武彦さんのことを知りませんでした。教育の原点を考えることができました。
- とても貴重な講演、ありがとうございました。
- 今回久留島武彦についての生涯について触れることができ、また金さんの生き方、取り組み方の素晴らしさを知ることができてとてもよかったです。金さんと玖珠、久留島武彦さんとの出会いが偶然でなく必然だった熱意を感じました。ありがとうございました。
- 熱意を持って取り組んだ実践が語り口からよく伝わり感銘をうけた。  
置かれた場所で精一杯やれることを尽くす、その意味の言葉がとても心に残りました。仕事をする上で忘れずにおこうと思います。
- 先生の生き方や考え方自体に共感しました。特にその行動力と実践力は私たちに必要なことだと感じました。
- ご自身の日本語との出会い、久留島先生との出会いから、町の創生に向けた熱心な取組について学ばせて頂きました。
- 講師の熱意をとっても感じました。記念館を学校であると例えて考えると、私たち教頭はどうあるべきか、などを考えながら聞くことができました。
- 言葉の重さを改めて感じました
- 久留島先生に対する熱い想いを聞くことができました。ありがとうございました。
- 久留島武彦についてあまり知りませんが、たくさんのことが知れて良かったです。改めて、教育の原点とは何か考えさせられました。
- 講師の方の行動力、そして教育につながる部分を話していただいて大変考えさせられた。
- キムさんの久留島武彦愛を感じた。「信じあうこと、助け合うこと、認め合うこと」久留島精神の大切さがわかった。
- ソンヨン先生の生き様、久留島武彦さんに対する情熱が素晴らしいと感じました。
- 久留島さんについては知らなかったことが多く、もっと郷土の偉人について勉強しないといけないと思いました。
- 金さんの意思の強さと久留島武彦に対する情熱を感じた講演だった
- 金さんの玖珠を深く愛する視点と地域復興の考え方が伝わりました。温かい講演でした。
- 金さんの生き方・考え方に共感できた。
- 久留島武彦について学ぶことができた。
- 久留島武彦の童話における「互いに尊重する」「違いを認め合う」「話し合いを大切にする」というテーマは、恥ずかしながら知らなかった。学校に戻ったら、久留島武彦の作品の存在を確かめたい。
- キムさんの情熱と行動力に驚きました。そしてキムさんのお母さんに感謝です。日本に残るように進めてくれたおかげで、埋もれかけていた(?)久留島武彦に光があたったと思います。記念館にいきます。



- 久留島武彦の生き方に共感を覚えました。明るいトーンでわかりやすかった。
- 金さんの自己紹介から、久留島武彦の話に自然と繋がっていき、最後に3つの教育の原点の話にまとめ、興味を持って講演を聞かせてもらいました。今度記念館の方にも行ってみたいと思います。
- 玖珠の勤務経験があるので、久留島武彦については知っていたが、新しく知ることがたくさんあった。決して有名な人ではないのに、外国からきた金さんの久留島武彦に対するリスペクトと情熱がすごいと思った。
- とっても元気をもらいました。近いうちに久留島武彦記念館に行き、キム・ソンヨンさんと話したいと思います。ぜひ、別府でも講演していただきたいです。
- 何よりも、生い立ち、そして前向きに進んでいく生き様に感銘を受けました。
- お話もうまく、大変勉強になりました。
- 金先生の、久留島武彦愛の強さを感じる講演でした。何か一つのことを追求するには、先生のような地道な努力が必要不可欠であると感じました。異国の地、異国の言語でここまでできることに感服致しました。記念館にぜひ行ってみたいと思いました。
- 玖珠町がなぜ、童話の里と呼ばれているのかがよくわかりました。また、キム先生と久留島武彦先生の繋がりが時を越え、今の記念館を作っていることも少しだけ理解することができました。これまでは、記念館に入ったことはなかったですが、今度、玖珠に来た時は真っ先に久留島武彦記念館に行きたいと思います。
- 玖珠にこのような施設があるとは知りませんでした。勉強になりました。
- 機会があれば、もう一度聞きたいと思いました。
- 聞き入ってました。内容、話術とも素晴らしかったです。
- 久留島さんのこともだが、金さんの考え方も話に聞き入る要因でした。
- 特に人権に関わる部分は、保護者にもぜひ聞かせたい部分でした
- 久々に聞き入りました。誰かに伝えたいと思ったのも久々で、記念館に行き、久留島の本も買ってみたいと思いました。
- キム先生は地域や子ども達のためにとてもご尽力してくれている方だと感じました。図書館に本を探して、子供達にも記念館のことを知って興味を持ってほしいと感じました。
- 金館長さんの講演を聞いて、久留島武彦さんは、素晴らしい人だったということを知りました。本当に目から鱗で、時間をつくって久留島武彦記念館に足を運びたいと思いました。ありがとうございます。
- 大変よかったです。引き付けられるお話で、あつという間でした。
- 金さんのお話を通して、久留島武彦先生をととても身近に感じることができました。また、先生の生き方の素晴らしさも、知ることができました。それは、金さんのこれまでの研究の深さの賜物だと思います。とてもわかりやすく、楽しく講演があつという間でした。ありがとうございます。
- 先生の一途な思いが伝わりました。
- 講演の内容が分かりやすく、何も分からないところからスタートして、1つのことを成し遂げることの大切さを学んだ。
- 金館長のご講演は今回が初めてではありませんでしたが、とても関心を持って拝聴させていただきました。スタッフの工夫により来館者数を増やされている取組は、学校での業務にも関わりがあり、感銘を受けました。
- 教師として、言葉の重み、言葉のもつ力について、再認識するきっかけとなりました。
- 共感できることが多かったです。
- 以前も金さんの講演を聞いたことがあるが、とても良かった。
- 記念館行ってみたいと思わせる講演でした。よかったです
- とにかく、お話が全体を通してわかりやすく、久留島武彦さんの事を深く知ることができました。他国の言語もわからない状況からスタートしてここまで頑張って来られた館長の前向きさと努力に頭が下がりました。管理職として上に立つものがキム館長のように先頭に立って引っ張って行けば、学校も変わっていくだろうと自分の立場と重ねて考えながら聴くことができました。ありがとうございます。
- 金さんの人間性、これまでの歩み、現在の取組等、とても興味深く聴くことができた
- 金先生の講演を聞いて、金先生が様々な課題にして「熱い情熱」で「突破」していく力強さを感じました。お話も上手で、ぜひ記念館に立ち寄りたいと思いました。
- 大変わかりやすくとてもよかったです。
- 初めて知ることが多くあり、もっと詳しく調べてみたいと感じた。自分の学校や、家族にも話したい
- 大変素晴らしかった
- 久留島先生の生い立ちや教育に対する考え方、また、金先生の考え方や行動力に感銘を受けました。
- 久留島さんと金さんがそっくりだと思った。情熱を感じた。
- たいへんよかったです。教育者としての久留島武彦の魅力、玖珠の魅力、金館長の魅力満載で玖珠がたいへん好きになりました。ありがとうございます。
- 金さんの探究心に感心し、魅力ある話に引き込まれました。
- 近い地域にしながら、講演を聴いたのは初めてで、現在の仕事に携わるようになった経緯は、自分たちの業務に関係が深いことが、ありがたかった。
- 童話の里、久留島氏に携わって教育のあり方を考えることができました。
- 講師の金館長のお話に引き込まれて、あつという間に時間が過ぎてしまいました。
- 教育の原点を考えさせられました。
- 久留島武彦について理解が深まった

- キム・ソンヨンさんの聞きやすい声と話し方がとても心地よいと感じました。久留島武彦記念館を語りの世界に連れて行ってくれるものにしたと、新しい展示を企画していて、来館したいと思うものに仕上がっていると感じます。「越境する文学」の本や「久留島武彦評伝」はぜひ読みたいです。久留島先生の童話のなかに表れている、「信じ合うこと、分かり合うこと、違いを認め合うこと」。人権に視点をおいた童話にもとても興味をもちました。近いうちに、久留島武彦記念館を訪れたいです。
- とにかく、久留島武彦氏のことにつき、知らずに過ぎてきたことでした。多くのことを知り、兎にも角にも勉強になりました。金さんの情熱、行動力に只々敬服するのみです。
- どんな環境においても、諦めず粘り強く他に足をつけ、すべきことは何か考え情熱的に行動をおこしていた姿に感銘を受けた。置かれた場所で、できることをコツコツとやっていくことが、次につながるステップになると教えられた。よい講演でした。ありがとうございました。
- 久留島武彦の生き方がよくわかりました。
- とても努力をしている方の話だったので、とても感銘を受けた。自分が来留島さんの本を読んだ事がないので、外国の方がこれほど興味を持たれていることに驚いた。
- とても興味深く、楽しいお話でした。
- 久留島武彦先生の考え方がとても感慨深かったです。久しぶりに聴き応えのある講演でした。
- 「みずすがしの旅」を思い出しましたが、言葉から学習してあれだけの研究をしたエネルギーに敬服しました。
- 講師の行動力の凄さに感動しました。
- 私自身の久留島武彦に関する認識が謝辞で話されていたものとほぼ一緒でしたので、大変学びになりましたし、講師のお話の至る所に詰まっている思いが伝わりました。
- 話も上手く、すごく気持ちが伝わってくる内容でした。
- とても興味深く拝聴させていただきました
- 先生自身の生き方が教育の原点だと感じました。
- ああいう場でマイクを使つての講演は聴き取りにくい。これは自分の聴力のせいです。
- 童話の里としての教育の取組がよくわかりました。個人的にも玖珠の行事に参加してみたくなりました。
- 教育の原点を考えるきっかけになった。
- 久留島武彦さんの思想だけでなく、キム先生の人柄も伝わってきて、とても興味深い講演でした。
- 金先生の話に惹きつけられてあつという間に時間が過ぎてしまいました。童話を通して子どもを育てた教育者である久留島武彦先生の教える教育の原点は、「行動力」・「継続力」・「生き抜く力」。そして久留島先生が「桃太郎主義」教育の中で、犬、キジ、猿と仲良く力を合わせて困難を乗り越えていくことの大切さを伝えていたが、その真髄部分にある「信じ合うこと」「助け合うこと」「違いを認め合うこと」を教育活動の根底に据えて精進していこうと思いました。ありがとうございました。
- 久留島武彦よりもキム・ソンヨンさんという人物に興味を持ちました。
- 自分がやりたいことに突き進む行動力には感動させられました。
- 是非、館長に会いに久留島武彦記念館に行ってみたいと思わせる講演でした。
- とにかく企画力と実行力に驚かされた。まず、熱い思いが根底にあることが、教育現場も同じだと思出すことができた。そして、周りの人を感動させて動かしていくには、そんな発想や行動力が必要なのだと考えることができた。
- 夏季休業中にエネルギーを充填し、二学期以降の学校運営に生かしていきたい。
- 講演、とても良かったです。金館長にはいつかご挨拶に伺いたいです。また、機会あればまたお話を伺いたいです。
- 久留島武彦の魅力が伝わったが、それよりも金さんの生き方から、学び続けることの大切さを学んだ。
- 地域と学校の連携した活動を具体的に発表していただけると良かった。
- とても聞きやすく大変よかったです。
- 大切なのは「行動力、継続力、生き抜く力」、金先生の貴重なお話を伺え有意義でした。
- 大分の偉人を発掘していただき嬉しく思います。これからも活躍され大分の良さを再認識できる本や取組を進めていただけたらと思います。
- 金さんの自分自身が興味を持ったことに対する生き方に感銘を受けました。講演の次の日にも大分合同新聞に久留島武彦記念館の事が掲載されていましたが、私自身も実際記念館に足を運び目にしたことで、金さんの講演内容がより身近に感じました。
- 力強さから活力をいただいた。
- 金先生の目標に向かって突き進む活力から元気をもらいました。一度記念館を見たいと思いました。
- 地元の教育素材をどう活かすかについて、非常に参考になりました。
- 子どもたちと向き合うにあたって、大切な視点であった
- マンネリ化を防ぐための工夫と地域のシンボルとなるべく研鑽を積んでいる姿が講演から感じられた。
- 人生を賭けて、情熱を捧げることでできる人物との出会いが素晴らしいと感じた。「信じあうこと、助け合うこと、違いを認め合うこと」という考え方は、教育の普遍の理念だと感じた。
- 玖珠町がなぜ童話の里を発信しているのかを、久留島武彦先生のお話をはじめ、いろんなことを聞くことができて、飽きさせない内容だった。
- 久留島武彦に関することだけでなく、講師の方御自身の生き方や考え方に大変感銘を受けました。これまでも振り返るととても貴重な時間となりました。

## 第1 A分科会（小） 教育課程に関する課題

提案主題 川添地区における地域との学びの連携と協働を深めるために  
サブテーマ ～地域の自然や人材を活用した教育活動の見直しを通して～  
協議の柱 ①地域・保護者と連携・協働を深めるための校内組織・体制はどうあればよいか。  
②地域と連携した持続可能な教育課程を編成するためにはどうすればよいか。

提言者 大分市立野津原小学校 小倉 春男

### 1 質 疑

(1)Q地域の風土や住民の考え方、保護者の雰囲気はどういったものか。

A川添公民館を中心として、協力的である。今年度、学習サポーターのよびかけを学校から保護者へおこない、サポーターの拡充を図ることもできた。

### 2 協 議

(1)地域コーディネーターと密に連携をとっていく必要がある。サポーターの高齢化が進んでいるので、サポーターの後継者を育てていくことも必要である。

(2)地域では公民館主事やまちづくり協議会など、学校では教頭・主幹教諭・教務主任・学年主任など、担当者が様々である。地域性があるので、地域にあった方法を模索し、それぞれの担当を決めて、持続可能なものとなるよう協議しながら教育課程に位置付けていく必要がある。

(3)学校規模や地域性、行政の取り組み方によってさまざまである。教育課程そのものにかかわってもらうには難しさがあるので、主に、朝活動やクラブ活動、総合的な学習の時間の中でかかわってもらう。

(4)コロナ禍が明け、行事や活動をすべて元に戻すのか、何をもどすのか、判断をするべき段階。従前どおりにもどす場合、地域の方々の思いや願いもあるため、それを十分に反映させながら、教育課程に反映させていく必要がある。

### 3 指 導 助 言

(1)非常に協力的な地域であり、多くの連携がとれていると感じた。真に地域に開かれた学校とは、教育課程の編成・実施をおこなうすべての先生が、地域とつながり、学校の実践を広く発信することであるため、地域・保護者と連携を深めるためには、校長・教頭が率先しながらも、学校と地域それぞれの担当者を中心に、密に繋がっていく必要がある。

(2)学校教育目標を設定し、さまざまな活動や行事といった教育課程のすべてが、その実現に繋がっているということを意識しながら、進めていくことが大切である。また、それを地域・保護者に伝えることで、学校・地域・家庭がそれぞれ主体性をもち、学校教育目標の実現に向かうために、教育課程を用いることで持続可能な教育課程となる。



## 第1 A分科会（中） 教育課程に関する課題

提案主題 学力向上に向けた教育課程の工夫・改善

サブテーマ ～学校の組織的な授業改善～

協議の柱 教頭として組織的に授業改善を進めるためにはどのようにすればよいか

提言者 佐伯市立鶴見中学校 足立 盛一

### 1 質 疑

(1)Q 小中の交流はどの程度行われているか？

A 提案授業や校内研究会が行われる際は、佐伯市すべての小中学校に案内文書が届き、校種を問わず、参加可能な体制になっている。

(2)Q 「説明する力」は学習指導要領で定義されているものなのか？

A 学習指導要領に定義されているものではない。学力調査結果を分析する中で、「必要な情報を取り出して活用する」「自分の考えを伝える」ことに課題があることがわかり、それを「説明する力」と名付けて、教科ごとに定義づけしていった。

(3)Q 校長と教頭で明確な役割分担はあったのか？

A 役割は分けず、自然発生的に役割分担を行っていた状態であった。職員室で職員の様子を観察しながら、必要に応じて助言したり、その場を収めたりしてきた。

(4)Q 授業改善アンケートに対する職員の温度差を解消する工夫は？

A 反発するようなnegativeな見方もあるのかもしれないが、職員の不満は出なかった。生徒の実態を把握でき、自分の授業スタイルの見直しにもつながり、自分を見つめ直す機会と捉えてくれたと思う。

### 2 協 議

(1)教職員間の連携を深め、共通理解すべきことを広げたり伝えたりするために、教頭自身が学び高めていこうとする姿勢で努力をする。

(2)所属するメンバーが持っている力を出し合っていけるよう、その年その年で方向性を見つけ出していく。

(3) 授業改善の時間を確保するために、マネジメント能力を最大限に発揮する。

(4) それぞれの学校で職場環境に違いがあり、学校に合った最適な方法を模索する。

### 3 指導助言

(1) 「【説明する力】を育成するために必要な力」を三つの資質能力に分けて整理すること。教職員一人ひとりが、自分が指導していることが児童生徒のどんな力につながっているのかを意識することにより、学校教育目標の実現は近づいてくる。

(2) 職員の年代バランスだけでなく、能力も経験年数も違う中であっては、校長・教頭が一枚岩となることが基本。管理職が実現したい学校の条件整備に力を貸してくれる味方を増やしていくとよい。

(3) 教頭の心身の健康が学校を支える。校長がやると嫌みになることも、教頭がやれば、それは「学校のカラー」となる。仕事に対して、自分自身に対して、誇りを持ってほしい。

## 第1B分科会(小) 教育課程に関する課題

提案主題 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた極小規模校における授業改善  
サブテーマ ～ガイド学習を通してめざす子どもを中心に据えた授業づくり～  
協議の柱 極小規模校での「ガイド学習」を通じた授業改善を組織的に進めていくために、  
教頭としてどのように関わっていけばよいか。

提言者 佐伯市立米水津小学校 益田 亮

### 1 質 疑

- (1)Q 研究主任の相談役として、どのような相談内容が多かったのか、またどのような授業の情報提供をしたのか。
- A 「授業が時間内に完結しない」「研究を他校へ伝え、広めるためにどうすればよいか」等に対して、「自分の考えのみではなく、記録を残して伝えよう」と指導した。
- (2)Q 毎時間ガイドシートを作成するのか、またその打ち合わせ時間をどのくらいとってどの時間帯で行っているのか等の、準備に関して教えて欲しい。
- A 毎時間作成し、打ち合わせの時間は、朝の個人学習の時間等を利用した。ガイドシートに関しては、子ども達が司会しやすいよう、最小限必要な項目を意識し作成。

### 2 協 議

- (1)前後の黒板等を使って異なる授業を行っていたが、今回学んだガイド学習を利用していけば、子ども達は主体的に学べ、より有効な指導ができたのではないか。
- (2)子ども達の主体的、対話的で深い学びに繋げるために、単元を絞って行うことが重要。
- (3)全ての子どもがガイドを経験することで、お互いの立場を考慮することができ、学び合いや学びの意欲づけとして、非常に有効である。
- (4)働き方改革を進める中で、準備等の時間を作り出すために、どうするかが重要である。  
日課表の工夫や昨年度のガイドシートの利用等、取組を継続することも有効である。
- (5)ガイド学習を通して授業改善を進めていく中で、人材育成も教頭として大切である。

### 3 指導助言

- (1)ガイド学習は、教育課程の内容を達成するための手段であり、ガイド学習を行うことを目的としてはいけない。ガイド学習を行う上で、子ども達にどういう力が育成できたのか、子ども達の発達に適しているのか、子ども達が学校教育目標を達成できたのかを、意識して見る。
- (2)ガイド学習に似たような取組は多数あるが、学校の教育目標を達成する為に「目の前の子ども達には、どの取組が適しているのか。」が重要である。
- (3)アドバイスを送る際には、「根拠」や「理論」を明確にして伝える事が大切である。

## 第1B分科会（中） 教育課程に関する課題

提案主題 「実践力」をはぐくむための計画的・継続的な取組  
サブテーマ ～小中一貫教育の推進と学校運営協議会の連携を通して～  
協議の柱 学校運営協議会や地域との連携を図り、その内容を学校内の活動や教育課程に反映して行く中で、教頭としてできることはどんなことか。

提言者 大分市立南大分中学校 戸次 弘子

### 1 質 疑

- (1)Q 中学校と複数の小学校が連携する場合、全体の責任者は誰が行っているのか。  
A 各小中学校の主幹教諭が学校の代表となって運営している。また、いくつかの部会に分かれているため、部会ごとの責任者が各学校にいる。
- (2)Q 小中で共通の目標などを決めているのか。小中で集まる目的は何か。  
A 学習規律を統一したり、生徒指導に関する情報共有や、小中が合同で取り組む活動を検討したりしている。小中を通した教育課程の共有なども行っている。

### 2 協 議

- (1)小中一貫教育の取組で特色のあるものとして、合同研修会や互見授業など行っている。小中の教職員間の交流を密にすることで、中1ギャップの解消にも繋がると思う。また、活動を継続させていくためには、学校同士の引継ぎが重要になり、教頭がつなぎ役として機能する必要がある。
- (2)地域人材の活用については、CSの委員との連携が主となっている。委員の多くは学校運営に協力的であるため、教育課程に沿った人材の活用を検討する必要がある。また、活動の評価や振り返りの場を設け、次年度へ活かしていくことが大切である。
- (3)学校運営協議会の人材として、地域コーディネーターに求めるものが多い。学習活動に積極的に関わっていただけるような人材（総合学習・社会・書写など）との橋渡しをして欲しい。調整役や情報発信などを教頭が担うこととなる。

### 3 指 導 助 言

- (1)小中一貫教育や地域との連携など、教頭が担う仕事がとても多いと感じている。現在は、学校が子どもを育てるためだけの場ではなく、地域や社会のためにどのように貢献できるかが求められている。学校で社会性を学ぶと言われるが、学校は同年代が集まる特別な社会であるため、異年齢との交流や社会に開かれた学校が求められている。
- (2)地域との連携は、教員にとって負担が大きく、地域によって特色が違うためとても難しいことである。学校が常に主導権を握るのではなく、思いきって地域に任せることも必要だと思う。地域コーディネーターが主となり、学校の担当者に取り組んだ活動の情報提供を行う仕組みであってもよいと思う。



## 第2 A分科会（小） 子どもの発達に関する課題

提案主題 困りを抱える児童を中心に、どの子も安全・安心な「みんなが笑顔の豊洋っ子」を育成するための組織的取組、それに向けた教頭の役割

協議の柱 困りを抱える子を起点に、どの子も安心して学べる組織的取組を行うために教頭の役割はどうあればよいか。

提言者 杵築市立豊洋小学校 宮原 朋瑚

### 1 質 疑

(特になし)

### 2 協 議

- (1)本提言は、組織的取組の理想の形である。それぞれの教職員の役割を明確にし、支援を要する児童の理解、課題の整理、解決に必要な合理的配慮を、学校全体で取り組んでいる。教頭は、教職員のまとめ役を担っていた。それぞれの持ち味を生かした関わりを促し、A児に対しみんなであたたかく関わる体制づくりをしている。
- (2)SCやSSW等の専門スタッフを有効に活用し、必要な合理的配慮に関する指導助言を受けることは有効である。教頭が外部とのつなぎ役となっていた。
- (3)情報の共有が的確に行われている。専門スタッフや保護者等からの情報、校長の方針等は、1ペーパーでの共有。職員室での情報共有では、成果のみでなく課題も共有できる温かい環境の醸成が、教頭を中心にできていた。
- (4)学び方について、A児本人による意思決定の場を保障したことが、有効であった。これを繰り返したことで、次年度の教室で他の子どもと学ぼうとする姿につながった。子どもの思いを大切にしながら、自分で考え判断できるように導いていくことが大切である。

### 3 指導助言

- (1)「組織づくり」と「情報共有」は表裏一体。「組織づくり」とは、「人間関係づくり」である。うまくいけば、おのずと情報共有もうまくいく。
- (2)「組織づくり」は大人も子どもも同じ。子どもの学びの姿は教職員の学びの姿の相似形。子どもに期待する姿は、私たち教職員が目指す姿でもある。
- (3)「組織づくり」＝「人間関係づくり」の土台に何を求めるのかを再考する必要がある。何を土台にするかは学校の実態によって異なる。例えば、特別支援教育、人権教育、めざす資質・能力等を土台としたときに、子どもたちにどんな姿を期待するのかを教職員で共通理解することで、アプローチの方向性が決まり、重点的な取組も決まる。
- (4)対話で深め、対話で補うことが大切。必要な情報は職員との対話から得ていく。
- (5)最後に、管理職としての心構え。「担任より前に出ない。担任に任せることが大事」「完璧を求め過ぎない」「教頭として目配り・気配り・思いやりが大切」

## 第2 A分科会（中） 子どもの発達に関する課題

提案主題 様々な課題を克服するための支援の充実  
サブテーマ ～不登校の未然防止をめざす組織的な対応を実践する学校づくり～  
協議の柱 効果的な情報共有をするための組織づくりや取組について

提言者 大分市立滝尾中学校 中 小百合

### 1 質 疑

※全体場で質問がでなかったため、記載事項なし

### 2 協 議

<きめ細かい情報共有の在り方について>

- (1)小規模校（各学年2名構成）においては、教頭が情報を収集、情報共有の要となる。
- (2)共有サーバー内に情報共有用のフォルダを作成するなど、情報をデータ管理することで、教職員が各自の都合に合わせて閲覧できる様にしておく。
- (3)学校連絡システムやTeams等、ICTを活用する。
- (4)提言にもあったように、毎週月曜日の職朝は情報共有のみを行うなど、あらかじめ時間設定をしておく。
- (5)小学校においては、生徒指導連絡会等を授業時間に組み込みにくいことが課題である。

<人材育成と組織づくりについて>

- (1)年齢や役職に応じた声掛けが必要である。また、相手にどのくらい伝わっているか、伝え方を考慮して伝えることを意識することが大事である。
- (2)間違っても修正する余裕がある案件については、担当に思い切って任せる。経験させることで成長する。
- (3)研修や職員会議の前に、雑談の時間を設けるなど、相談しやすい環境づくりに取り組む。

### 3 指導助言

- (1)組織づくりと人間関係づくりは表裏一体である。組織が良好であれば情報共有もスムーズに行うことができる。
- (2)人間関係づくりについては大人も子どもも同じである。良好な人間関係の構築を子どもに期待するのであれば、私たち教職員もそれを目指すことは当然である。
- (3)人間関係づくりの土台を何に求めるか。例えば、土台を特別支援教育に据えた場合、それを土台とした学習指導、生徒指導、職場づくりをしていく。現在の勤務校の課題を踏まえ、情報共有し、学校経営理念の土台づくりをすること。
- (4)対話で深める、対話で補う人材育成を図ること。管理職として、ミドルリーダーと言われている人への話し方があるはず。その人の立場に応じた話し方を心がけること。

## 第2B分科会（小） 子どもの発達に関する課題

提案主題 特別な配慮を有する児童の対応と行内体制の在り方  
サブテーマ ～関係機関と連携した子どもの居場所づくり～  
協議の柱 教頭として、特別な配慮を有する子どもの居場所づくりと支援体制づくりをどのようにすすめていけばよいか

提言者 大分市立賀来小学校 姫嶋 公彦

### 1 質 疑

- (1)Q 教育相談の担当職員はいるのか。  
A 担当がいる。
- (2)Q ケース会議の情報の共有の仕方はどのようにしているか。  
A 会議終了後、管理職、関係学年にワンペーパーにまとめたもので共有。
- (3)Q ケース会議の持ち方は？  
A 日時、時間等は不定期。必要に応じて行う。

### 2 協 議

- (1)ケース会議を定例化するメリットは外部の人間が参加しやすい。デメリットはスピード感がない。不定期のほうが長い目で取り組みやすい面がある。
- (2)生徒指導と特別支援教育は分けて行う方がよい。
- (3)教頭がすべてを引き受けることは難しく、教育相談コーディネーターやミドルリーダーを中心に行ったり、SSWや不登校対策支援員（中学）を活用したりするとよい。
- (4)個と個のつながりをつくったり、学級の雰囲気を感じられる場所の提供をしたりして子どもの居場所づくりを行う。その際、教頭が行うのではなく、コーディネーターを中心に行う。

### 3 指導助言

- (1)情報共有のため、ケース会議をワンペーパーにまとめて渡すなど、記録を残す意味でも大切である。
- (2)窓口の一本化、目標の共有（ベクトルをそろえる）、情報管理等、教頭が適切な指示を出す。
- (3)ケース会議での役割を決めとくのもよい。
- (4)学校だけで解決しにくい時代になり、教師の仕事も多様化している。特別支援教育アドバイザーなど専門的なスタッフの配置が全県下で行えるとよい。

## 第2B分科会（中） 子どもの発達に関する課題

提案主題	支援を要する生徒への組織的な対応と教頭としてのかかわりについて
サブテーマ	～校内支援体制づくりと保護者との連携～
協議の柱	教頭として、支援を要する生徒への校内での取組のベクトルを揃えるために必要なものは何か。

提言者 国東市立志成学園 西村 光博

### 1 質 疑

- (1)Q 支援を要する生徒の保護者の願いは何か。また、保護者へのアプローチはどのようにしたのか。
- A 保護者の願いは生徒が教室に入って授業を受け、高校まで卒業すること。保護者へのアプローチは学校からは電話連絡などを行い、連絡が取れない時には、SSWなどが積極的に関わりアプローチをしてくれる。またSCが月に1回保護者との二者面談、担任を含めた三者面談を実施し情報を共有している。
- (2)Q 短期目標・長期目標はどういう人たちが関わって設定したのか。
- A 担任が本人にどこまでできるかを聞き取り、困りを把握し、必要な支援を学年部で協議をした上で、学校全体（SC・SSWを含む）で共有し設定した。

### 2 協 議

- (1)持続可能な体制づくりを念頭に、若年層が担当することを見据えて、特別支援教育コーディネーターの役割を明確にするために、システムやマニュアルの作成をしたほうがよい。教頭として、仕事の割り振りや、隙間の仕事の割り当て、先を見通したアドバイスを行うことが必要。
- (2)特別支援教育コーディネーターと教育相談コーディネーターとの仕事の分担をしておくことは管理職の役割ではないか。学校規模・学校状況によると思うが、教育相談コーディネーターは教頭がすると保護者対応などを含み、円滑になる。
- (3)授業を受けることがゴールではなく、学力保障をしっかりとする必要がある。小・中連携会議で9年間を見通した支援体制づくりを行い、いま必要な支援を小・中の垣根を越えて行き、学力の定着を図ることが大切。また、ICTの活用などで、教材を調べて提供するなどの工夫を行うことも有効。
- (4)生徒の実態とゴールの姿から何をすべきかを考えて、取組の方法を考える。その際の情報交換は公の場で行い、全体で共有するようにする。

### 3 指導助言

- (1)定期的な研修を仕組むとよい。講師を招いて、ICTを活用して、講師と学年部と一緒に計画を作成する。そこに管理職も入る。そうすると若手の経験が増し、育成につながる。
- (2)教職員がベクトルを揃えることが大切である。そうすれば、担任以外の教職員も同じように動き、支援することができる。また、関係機関やコーディネーターなど専門的な方々とつながることで、新たな支援方法を知ることができる。
- (3)短期目標や長期目標は更新していくことが大切である。仕事が増えると思わず、見直しをしていき、最適な支援をしていくことが必要である。
- (4)若手教職員が増える中で、リーダーを育てることが必須。みんなで育てていく体制づくりをしていくことが大切である。

### 第3 A分科会（小） 教育環境整備に関する課題

提案主題 小中一貫教育の推進における環境整備及び体制づくり  
サブテーマ ～小中一貫教育における取組を通して～  
協議の柱 めざす子ども像を実現するため、小中教職員間の連携を教頭としてどのように図っていくか。

提言者 豊後大野市立犬飼小学校 甲斐 敬人

#### 1 質 疑

- (1)Q 小中の教頭どうしの日々の連絡とあるが、業務分担は？  
A 中学はPTA事務局。小学校はPTA会計。CSは小学校。合同職員会議は中学校。電話のやりとりを密にとっている。
- (2)Q （豊後高田市も）小規模校がふえていて、小中の連携をすすめているが、従来の小中連携ではなくて、隣接型の小中一貫教育校になった経緯はどのようなものか？  
A 「地域にただ一つの小中学校」として大切にされてきた部分がある。また、乗り入れ授業の推進のしやすさなどのメリットがある。
- (3)Q 小中一貫校開校後、児童の生活場所の移動はあったのか？  
A 基本的に開校前と児童。生徒の生活場所は変わらないが、小6が中学校校舎で専科授業（音楽）を受けることはある。

#### 2 協 議

- (1)小中一貫（連携）については、地域や学校規模によっても様々な現状がある。例えば「校内研で」「人権教育で」「CSで」「乗り入れ授業で」「小中校で」など。小中の職員間のよりよい連携については、“児童・生徒の主体性を求める度合いの差”など、いわゆる「文化の違い」的なギャップがあるように感じ、それを埋めていくことが重要と考える。意見交換を重ねるなかで相互理解に時間をかけて、方向性をそろえていく、教頭はそうなるように場の設定や話し合いの仕方などに工夫を図っていくべきだと考える。

#### 3 指 導 助 言

- (1)小中一貫教育校のビジョンを全職員等関係者の間でしっかりと確認している点が重要。教職員のみならず地域や保護者のそれぞれが主体性・当事者性をもつことにつながる。
- (2)小中一貫教育推進のための組織の明確化がなされ、運営体制もよく整備されている。
- (3)小中の職員がお互いに認め合っていく。批判ではなく「和」を大切にしたコミュニケーションを重ねていることが、よりよい小中の教職員間の交流がすすめられていることにつながっていると思う
- (4)若手等の人材育成については、モデリングやペアリングなど踏まえた現場実践を経験させることで、ミドルリーダーを意識した育成に取り組んでいくことにも期待する。



### 第3 A分科会（中） 教育環境整備に関する課題

提案主題 学校教育目標達成に向けて教頭として、学校の教育環境整備にどう取り組むか  
協議の柱 効率的な業務改善と教育環境整備を進めるための教頭の役割はどうあればいいのか

提言者 宇佐市市立西部中学校 尾形 義和

## 1 質 疑

- (1)Q 時間変更について保護者や地域の意見や反応は。  
A 保護者から反対意見はない。PTA役員や地域からの反対意見も届いていない。
- (2)Q 掃除について 回数を減らしたことで行き届かない箇所等があったときどう対応をしているか  
A 行き届かない箇所を、誰かがするかとはしていない。ゴミがあったり、汚れているところがあったりしたら、そのときにその場でやるのが大事  
清掃予定日に雨が明日降りそうなどときには、前日にすることもある。
- (3)Q 教育効果が低いと思うもので他にカットしたものはあるか。  
A 行事について先生方がねらい達成のために、どれくらいの取り組み期間（時間）が必要かは考えている。何時間も練習をして効果が本当にあるのかという対話はしている。限られた時間の中で効果を上げることが教育である。

## 2 協 議

- 業務改善の推進  
集会・清掃・朝自習・朝活・モジュールの時間等カットし、放課後の時間を生み出している  
下校時間（部活終了時間）を決めている→黒板に書いて共通理解を図っている  
計画年休を、行事予定表に年休を入れて回覧する  
“Teams” “outlook” でスケジュール管理を管理職がしている  
教育効果と教職員の共通理解管理職の意識付け、授業時間の変更も視野に変えていくことが大事  
業務改善を推進していく上で、組織的な指導体制と組織的な修正が重要

## 3 指導助言

- 本日の実践の内容についていくつも尊い内容がありました。今後に向けて3点お伝えします。
- 一つ目として、学校は宝です。学校がなくなると、地域が廃れる。地域とともにある学校づくりです。学校の困りや助けてもらいということを出して、地域の知恵を借りることは、「働き方改革」の視点からも重要である。教頭は外部に対するスポークスマンとなる場面もあると思います。このようなことを意識して進めて欲しい。
- 二つ目として、主任のリーダーシップによる分掌活動が行われること。課題を克服する場面で分掌の責任者が中心となりミドルアップされている営みがあるかが大事です。質の高いミドルアップは校長の高い経営判断に繋がります。そのためには、職場の協働体制・雰囲気・輪を大事にして分掌運営を大事にして欲しい。
- 三つ目として時間の視点での学校経営です。校時の工夫によって放課後の時間を確保することは大きな改革であると思います。何をやるにも、メリット・デメリットはある。行事の精選は管理職の仕事です。
- 最後に、主任クラスの意識の差、個々の力量の差はどこの学校においてもある課題ではないかと思えます。まずは、本人の適正の見極めをして、組織的な指導体制、組織的な修正がもっとも大事であると思えます。



### 第3B分科会（小） 教育環境整備に関する課題

提案主題 「ミドル・アップダウン・マネジメント」を実現するための教育環境整備に関する教頭の役割

協議の柱 教職員の学習や学びの場や環境を保证するため、どのようにタイムマネジメントをしていくか

提言者 中津市立三郷小学校 笹島 大幹

#### 1 質 疑

(1)Q 4・5月は教頭がファシリテートして主任を育成したようだが、どんな苦勞があったか。また、教務主任とどんなことにがんばったか。

A 最初は困っていることや悩んでいることを出させて、自分が中心になって昨年度もいて分かっている先生と共有しながら行った。（4月は3回）

5月中旬から会の流れのイメージできたので、自分たちでするようになった。盛り上がって時間が長くなることもあったので、30分で切るようにした。また、5分でも集まる習慣をつけるようにした。

#### 2 協 議

(1)時間を有効に使うための意識づくりが必要だと思う。そのためには、タイムマネジメントや時間を生み出すスキルアップしていかないといけない。

（教育課程の持ち方・校時表の見直し[朝の時間・掃除時間・短縮等]）

(2)「担任会」は、教職員自身が達成感を感じ、モチベーションが上がっているようなので有効であると思った。また、管理職が入っていないよさも感じた。

(3)会議の持ち方（運営委員会・職員会議・職員連絡会・PT[プロジェクト会議]・企画会議等）を工夫していく。

(4)会議・研修等の年間・学期ごとに計画を立て、月・学期ごとの見通しカレンダーを作って活用していく。（会議内容の全体での共通理解するとともに、会議内容の準備等）

#### 3 指導助言

(1)たて（ミドル・アップ・マネジメント）と横（担任会）を積み上げながら、編み上げていた。

(2)担任会などはやり方や時間の設定の工夫が必要。費用対効果を考えていく必要がある。

(3)担任会等の事前事後の報告については、ICTを活用することで、いろいろな手間を省き、時間の無駄を省くことができるのではないか。

(4)人材育成について意識を変えてみる必要がある。1～100まで全部教えるのではなく、一人一人の自己研鑽も必要。主体的に自己学びを展開していく若手を育てていく。決められた時間の中でうまくやりくり・工夫をして最高のものをつくってほしい。

## 第3B分科会（中） 教育環境整備に関する課題

提案主題 学校教育目標「未来社会を創造する基礎力を身につけた生徒の育成  
～夢実現『3C』：Chance Challenge Change～」の実現を目指して  
協議の柱 教頭として、児童生徒や全教職員が学校生活をより豊かに充実させていくために、どのような具体的方策を行えばよいか。

提言者 竹田市立緑ヶ丘中学校 内川 和徳

### 1 質 疑

(1)Q タブレットの使用・活用状況はどのようになっているか。

A 市全体としては、毎日持ち帰るようにしている。本校でも毎日持ち帰っていたが、使用状況に課題があり、持ち帰りをしない期間もあった。普段は登校時にタブレット庫に入れ鍵をし、授業ごとに開けて使用している。

(2)Q 小中の連携で互見授業はとてもいい取組であるが、その他に、子どもたち同士の交流などはあるか。

A 瀧音楽祭の前に互いに発表し合ったり、小学校6年生を対象に中学校の体験入学を行ったりしている。

### 2 協 議

(1)地域人材の活用をどの学校も取り組んでおり、学校運営協議会を中心に公民館や地域の振興会など様々な連携が進み、それが子ども・教職員にとっても良い効果を生んでいる。コーディネーターを軸にした仕組みづくりが大事である。

(2)教育の情報化・ICT活用は重要であり、板書・指導案のデータ化・共有化、ICT支援員の活用、ロイロや学習アプリの効果的な使用などそれぞれで取組が進められている。

(3)小中の連携は重要であり、授業の約束事の統一化や中学校教員の小学校への授業の乗り入れなどが進むとよい。

### 3 指導助言

(1)学力向上という軸で組織・体制を作り、9年間の学びにつながるよう、教頭が足を使いつむぎ、仕組んでいる。互見授業、小中連携がとても参考になるレポート内容であった。

(2)外部人材の活用にコーディネーターを関わらせたり、新たな校内組織を立ち上げ議論・提案するなど大変ではあるが、一手間加えることで違う価値観が追加される。

(3)教職員も能力・キャパが一人一人違う。その教職員にあった仕事の相対量の見極めは難しいが、面談の活用、日常の会話など常に管理職が教員の状況・状態を把握していくことが大事である。

## 第4 A分科会（小） 組織・運営に関する課題

提案主題 持続可能な働き方の実現と教頭（教頭会）の役割  
～実践の共有と二学期制への移行の取組を通して～  
協議の柱 働き方改革を進めるために、教頭（教頭会）の役割はどうあればよいか。

提言者 津久見市立堅徳小学校 山本 宏

### 1 質 疑

- (1)Q 二学期制に移行したことによるメリットはどのようなものがあるか。
- A 通知表による評価が2回になったことで、長期休業中に期末整理の時間がもてるようになった。前期と後期の間に秋休みを設けるなど、現在の段階では時間的な確保の面でメリットの方が多いと感じている。
- (2)Q 市教委からの働き方改革における登庁・退庁時間については管理職にも適用されるのか。また、今年度勤務時間（残業時間）に変化はあったか。
- A 7：30以降登庁18：30完全退庁を管理職も含めた目標としているが、児童生徒の登校時間を考えると教頭は早めの登庁時間となっている。残業時間については昨年度に比べると減っている感覚があるが、集計ではあまり減少していない現状である。

### 2 協 議

- (1)校時表の見直しや期末整理の時間や授業時数の調整などをおこなって、時間を捻出していくことを目指したい。また、学校4点セットの中身を見直すなど、資料の簡易化（文章の明確化）も働き方改革につながると考えられる。
- (2)コロナ明けによる出張の増加や、中学校現場での部活動など、まだ働き方改革の推進が困難な面が多い。各学校での取組も大切だが、市や県で一斉に指示を出すなどの一貫した取組が望ましい。
- (3)教頭自身も早く退庁して示すことも有効である。
- (4)ICTを有効活用し、会議の効率化や欠席連絡の配信など事務作業の減少に努めたい。

### 3 指導助言

- (1)働き方改革の目的は、「職場づくり」。時短の工夫を「手段」とし、生まれた余裕で、働きやすい職場環境や子どもに向き合う時間の確保の推進を目指してほしい。
- (2)「共有」とは、何を共有するのか。課題を共有、取組を共有、成果を共有することで「意識」向上につながる。PDCAサイクルにのせて実践していくのが教頭の役割である。
- (3)教頭だけが頑張るのではなく、地域（PTA、自治会長、学校運営協議会）を巻き込むことが必要である。教頭の働き方改革も実践（ルーティング）してほしい。

## 第4 A分科会（小） 組織・運営に関する課題

提案主題 若い教職員の組織的な人材育成の在り方  
協議の柱 若い教職員が実践的指導力を持つための組織的な人材育成の在り方と、学校が組織として機能するための教頭の役割

提言者 別府市立上人小学校 佐々木 雅子

### 1 質 疑

- (1)Q ボランティアが授業に入るまでの流れを具体的に知りたい。また、その調整役は誰か。  
A 学校運営協議会の学習部が主体となっている。各学年から上がってきた要請を配信システムで保護者に知らせ、応じてくれた保護者が授業に入る。調整は教務主任。
- (2)Q 担当が明確でない仕事内容とは。  
A 教頭は「何でも屋」になっている。「これは教頭がしていました」と各担当から話がある。初めから教頭に頼るのではなく、まずは担当でやってみよう意識付けている。

### 2 協 議

- (1)人材育成の仕方は学校規模で違うが、組織としての機能を使っていく。互見授業を仕組んだり、校長に褒めてもらったり。「失敗したくない・褒められたい」若手の傾向を把握したうえで傷つかないように接していく。
- (2)若い教職員は、突発的な保護者対応等が苦手な傾向があるがベテランと組むことで力を付けている。また、仕事を割り振り、責任感等を育てるのは教頭の務め。
- (3)若手のみならず全教職員に対する指導・声掛けは、相手に合わせて行う。教室での子どもに対するやり方と同じ。核になってくれるベテランと一緒にいる。
- (4)事が起こった時の保護者対応の仕方もそうだが、その未然防止となる「配慮」を一つずつ教えていくことが大切。また、ロールモデルを持たせるために、優れた授業を見せる機会を設定する。

### 3 指 導 助 言

- (1)教頭の一番の仕事は「人づくり」である。教員を一人前にし、後継者を作ることが大切。そのために「育つようにする」環境を作る。  
若手には、まず「社会人」として一人前になるように支援する。例えば「当たり前」ではなく「感謝」の気持ちを持つことなど。また、「育てる人（ミドルリーダー）」は職務を通じてアドバイスを行い育てていく。若手を伸ばす中でミドルリーダーも伸びていく。
- (2)「授業」で育てる。授業者にはまずねぎらいとお礼の気持ちを伝えることが大切。ダメ出しは厳禁。問いかけをして授業者自らが振り返ることができるように仕向けていく。
- (3)「職員室」で育てる。中休み・昼休み等教職員が職員室に戻ってくるときは、仕事の手を止め、顔を上げ職員の様子をしっかりと見て、コミュニケーションをとっていくことが大切である。

## 第4B分科会（小） 組織・運営に関する課題

提案主題 「働き方改革」における教頭の役割とは  
サブテーマ ～教職員が笑顔で児童と向き合うための時間をどう作り出すか～  
協議の柱 教頭として、超過勤務時間の削減にどのように取り組めばよいか。

提言者 白杵市立白杵南小学校 中川 かおり

### 1 質 疑

- (1)Q 教頭の負担（丸つけや不登校対応等）・超勤時間が増えているのではないかと。  
A 超勤は月平均50時間。職員が1人でも休職になる方が負担増となるので、校長と分担しながら未然防止に努めている。
- (2)Q 学級だよりを週1から月1にして、保護者の反応はどうか。代替案としてホームページ等での発信はあるのか。  
A 保護者からの反応は特に聞いていない。必要なことは次週の日課表の下の枠に掲載している。（日課表は毎週配付）学校だよりとしてもホームページで校長が発信している。

### 2 協 議

- (1)メール連絡などの活用。欠席連絡をメールでできるようにしたことで、朝の電話対応が減っている。
- (2)授業のコマ数の見直しを行い、週29時間の時数を28時間にできるように工夫をしている。課題として、年間の内容がきちんと終わらせられるのかという懸念がある。
- (3)PTA活動など、職員に時間外の負担を負わせないように管理職中心に対応している。また、保護者と相談し、活動や組織の見直しを行っている。
- (4)超勤縮減・定時退庁日（ノー残業デイ）は学校の規模によって取り組む困難さが違ってくる。タイムマネジメントの重要性が高まっている。

### 3 指導助言

- (1)事務仕事や学校行事などの授業以外の仕事が多い。また「配慮の必要な子が増えている」「部活動」「保護者・PTAの対応」「教育内容の多さ」など忙しい現状がある。
- (2)校長の管理能力、教頭の意識改革、教育内容の工夫が必要である。
- (3)教頭として、「鍵にシールを貼り戸締りを確認しやすくする」「保存年限を見て書類の整理をし、スペースを確保する」「どこに何があるか表示をしっかりとする」などの工夫も必要である。
- (4)授業のコマ数や行事については、根拠をもってきちんと保護者に説明できれば削減できる。削減した時間を使い、人間関係づくりプログラムに取り組んだり、子どもとかかわる時間を増やしたりすることが、負担減につながるのではないだろうか。
- (5)子どものために「削減していくこと」が大切。毎日、毎時間の授業で子どもたちを育てていくために、管理職が学校を盛り上げていく必要がある。



## 第4B分科会（中） 組織・運営に関する課題

提案主題 地域とともに歩み続ける学校であるための教頭の役割  
サブテーマ ～本場鶴崎踊大会の取組を通じた持続可能な連携をめざして～  
協議の柱 学校と地域と家庭の持続可能な連携とはどうあるべきか、教頭として何をすべきか。

提言者 大分市立鶴崎中学校 坪根 恭平

### 1 質 疑

- (1)Q 総会をコミュニティスクールに代えて持つようにしたということだが、具体的にはどのようなことをしているのか。
- A 「鶴翼会」総会の中でやっていた、1年のまとめと次年度の活動計画について話し合った。学校運営協議会の活用が大きな成果。生徒代表の参加を今後は検討する。
- (2)Q 希望参加で、練習はいつ行っているか。また、希望者の割合はどの程度か。
- A 夏休み中に希望者のみ集めて練習している。しかし、希望する生徒は少なく、240人中20～40人程度。生徒会に声をかけて集めることもある。
- (3)Q 生徒は企画にも関わるのか。また、地域とともに何とか維持しているのか、発展させようとしているのか。
- A 参加ではなく参画。係の仕事にも携わっている。何とか維持しようとしている。

### 2 協 議

- (1)どの学校にも地域の行事があると思うが、コロナ前に行っていたことを、どの程度やっていくか精選する視点で熟議していく。
- (2)持続可能な地域との連携のために、地域コーディネーターに地域と学校をつなぐ役割を担ってもらう。学校ではなく地域が主体となる体制づくりを行っていくことが重要。
- (3)地域の行事が教員の負担となったり、無理に子どもたちを参加させたりしなくてすむように、総合的な学習の時間に行事について学ぶ時間を確保するなどして、学校から促さなくても自発的に参加者が増えるよう改善を図っていく必要がある。

### 3 指導助言

- (1)提言にあった「鶴翼会」誕生の経緯を生徒自身が知らない。他校でも、同様なケースはあるので、何十年も前にできたものは、今の時代に合った形に変えていくべきだ。
- (2)中学校では、部活動の地域移行が進んでいくことが予測されるので、教員の負担が軽減できれば、生徒会に地域ボランティア部を作ることも可能。また、教育課程に位置付けて授業の中で歴史や伝統を継承していくといい。
- (3)地域コーディネーターの人選や学校を支えてくれるボランティアを増やすことが重要。
- (4)地域との連携は難しいが、時代背景や地域の実情に合わせて、無理のないシステム作りを行った上で取り組んでいくことが望ましい。

## 第5 A分科会（小） 教職員の専門性に関する課題

提案主題 教職員の専門性を活かした資質・能力向上を図るための取組について  
協議の柱 教職員がそれぞれのキャリアステージを踏まえ、専門性の向上を図るため、教頭としての関り方はどうあればよいか。

提言者 豊後高田市立河内小学校 安藤 絵里

### 1 質 疑

- (1)Q 毎朝、1日の流れやそれぞれの取組の進捗状況など情報共有するためのミーティングを行っているが、何時からどれくらいの時間、行っているのか。
- A 7時30分から10～15分程度行う。勤務時間内の設定は、難しかった。
- (2)Q 行事の精選といわれている中、今まで行っていた取組をなくす決断をしたことがあったか。もし、決断をされたのであればどのような経緯で行ったか教えてほしい。
- A コロナ禍後も引き続き、運動会を半日開催にした。地域の方々の競技への参加を断った。近年の気候のことも踏まえた時間の短縮、行事の取組の趣旨等も関係団体の方に伝えた。

### 2 協 議

- (1)O J Tを計画的に進めるには行事を活用し、教頭として臨機応援に指導・助言を与えることが大切である。外部との連携については、最初の連絡は教頭が行い、そして担当に引き継ぎをして、外部とつなげていくことがよい。
- (2)学年部や年齢層の偏りが少ないようなチーム編成をし、自然と聞き合う雰囲気づくりをする。ベテランと若手のつなぎ役が教頭の役目である。
- (3)年齢層や得意分野等を考えて細かく分掌決めを行っていくことが必要。業務を効率的に行っていくために、教頭として日頃から職員とコミュニケーションをとる必要がある。
- (4)教頭とミドルリーダーが連携していくことが重要。次年度のこと踏まえ、ミドルリーダーを育てていく必要がある。教職員の人間関係づくりプログラムを行うことも必要か。

### 3 指 導 助 言

- (1)学年部の動きや職員が何に困っているのかなど見える化することは、どの学校でも活用できる取組である。
- (2)教員の得意分野をいかす配置をする。それぞれの教職員の強みを生かしていくためには、教頭として日頃から職員と程よい距離をとりながらコミュニケーションを行っていくことが重要である。
- (3)大分県教育委員会の育成指標に基づき、教育活動を通して何ができていて、何ができていないか捉え、それぞれのモチベーションを高めていくことができるのか考えていく必要がある。この部分は、業務で忙しいが、ゆっくり考えることが教頭として必要である。

## 第5 A分科会（中） 教職員の専門性に関する課題

提案主題 教職員の防災に対する危機管理能力向上のための取組  
サブテーマ ～子どもたちが“自分ごと”ととらえて行動する防災訓練の実施に向けて～  
協議の柱 「副校長・教頭として、教職員の危機管理能力を上げるためにはどのように関わればよいか」

提言者 日田市立津江中学校 佐藤 武吉

### 1 質 疑

- (1)Q 3月の抜き打ち訓練は予告をしたのか。また、12月の訓練はどうしたのか。
- A 知らせていない。12月の火災避難訓練は数日前に避難経路等は確認し、実施日は生徒には知らせずに行った。
- Q 話し合い後に避難場所の共有やハザードマップの小中の交流はしたか。
- A 今回は自分たちで判断するところ見るため、それぞれが考えた場所に避難させることにした。ハザードマップについては、職員間で共有した。
- Q 図上訓練において、小学校低学年などどこまで学級で話げできたか？
- A 担任の問いかけなどで、自分たちでよりよい場所を考えることができた。
- Q 学校外の災害について、学校ならではの指導はしているか。
- A 5月に引き渡し訓練を実施。引き渡しか学校に留めるかの判断は必要。

### 2 協 議

- (1)子どもたちがどこに避難するのか、基本的な避難場所を知っておくことは大切。
- (2)危機管理マニュアルを見直し、改善していくことや、外部からくる点検などを教員の学習の場にしていくことで管理能力を上げる事につながる。  
どう臨機応変に対応できるか、子どもたちに考える力をつけさせることが大切。  
CSを巻き込むなど、地域と共に訓練を行えるとよりよいものになっていく。
- (3)教職員の共通理解、意識づけが大切で、そのためには初期消火の実施訓練等の教員の学習が必要。子どものけがに対する対応・保護者への丁寧な説明など、失敗から学んだこと若い教員に伝えていくことも大切。
- (4)“自助”のあり方を教職員や子どもたちと本気で考える研修とするように、教頭がつなぎ役になる。

### 3 指導助言

- (1)子どもたちが「自分ごと」としてとらえるためには、教職員が「自分ごと」として捉え、どうすればよいかを考える必要がある。従来の訓練の形を変えていくために、教頭がリーダーとして動き、分析し、総括を行っているところが評価できる。
- (2)教師の危機管理能力を上げるためには、地域の実情（自然、環境、過去の災害箇所等）を職員も一緒に知ることが一番大切である。そして、あらゆる場を想定し、どういう場で行うかを考えた訓練が大切である。事例や体験から学んだり、赤十字等の外部の力を借りて防災学習等を実施したりすることも有効である。
- (3)教職員が学校に参画する当事者になっていくことが大切である。そのためには教職員との対話が必要。教職員の持っている経験を聞き、それぞれの専門性、強みを見極め、活かすのは教頭だからできることである。地域を知り、地域とつながることも大切である。

## 第5B分科会（小） 教職員の専門性に関する課題

提案主題 クラウドを使った情報の共有化は、働き方改革につながっていくのか  
協議の柱 独自の校務支援システムを開発し、導入することで考えられる利点とは何か。また教員の意識の変化と思いを考え、その上で本当の働き方改革に必要なことは何かを考える。

提言者 大分市立東植田小学校教頭（前任校・玖珠町立塚脇小）工藤 勇造

### 1 質 疑

(1)Q 玖珠・九重町で使用しているクロムブックの利点は何か。

A クロムブックは画面を開いたまま他のスプレッドシート、塚脇サイトを見ることができ  
る。また、メールはタスクバーに張り付け可能である。大抵、無害化をしてダウンロード  
をしなければいけないが、クロムブックはその必要はない。

(2)Q T-Compassとの連動はどうなっているのか。

A 連動している。Excelをうまく利用し、貼り付けを行って通知表など作成している。

### 2 協 議

(1)ペーパーレス化、ロイロノートでアンケート、連絡掲示板を自分で写真をとって工夫するな  
ど、時間短縮をしている。

(2)ICT活用で時間を生み出し、子どもに接する時間を作らなければ、何のための働き方改革かわ  
からない。

(3)連絡アプリを保護者も使用し、欠席連絡をするようになり電話が減った。

(4)今ある仕事を減らすことは、働き方改革につながるが、他のやり方に変える場合は、ICTが苦  
手な人にとっては負担になる。また、学校規模にもよる。

(5)新しいアプリ、システム、ICT機材が入っても使いこなすまで時間がかかり、教職員の負担に  
かえってなってしまうところがある。また、教頭職も郡市が変わると違いがある。と  
にかく慣れるように、使ってみることも必要であり、教職員同志の声掛け、管理職のリーダー  
シップが求められる。またアナログ（紙）も使い、ICTとの共存を考えるべきである。

### 3 指導助言

(1)働き方改革は、子どものためであるが、教員自身のためにとらえていくことも必要である。

(2)自治体でかなりシステムに違いがあり戸惑う部分は確かにある。今後、考えていくべきであ  
る。

(3)ハード面が変わり、ソフト面もこれまでにない変化が起きている。しかしながら、変わらない  
点もある。ICT大企業でも、付箋紙や紙を使って会議を行っている現状があり、紙とICTのバラ  
ンスを考えた働き方が必要になっていく。



## 第5B分科会（中） 教職員の専門性に関する課題

提案主題 「働き方改革に繋げる」運動部活動指導体制の一考察  
サブテーマ ～校内合同運動部活動の取組～  
協議の柱 「働き方改革に繋げる」部活動指導体制はどうあるべきか。

提言者 中津市立緑ヶ丘中学校 大江 堅志

### 1 質 疑

- (1)Q 生徒アンケートで「合同部活動は楽しい」という肯定的回答が88%と高い結果になった要因は。
- A 日頃していないコアトレを行なったことや、部活の枠を超えて他の部活との交流試合が楽しかったのではないか。
- (2)Q 職員20名に対し部活動17というのは負担が大きすぎると思う。部活数を減らすための基準等があるのか。
- A 基準等はないが、他校との合同チームが可能になり、団体が組めないような人数しかいなくなっても、部をなくしづらくなった。

### 2 協 議

- (1)拠点校方式を取り入れ、地域から指導者を招く。しかし、指導者の人材の確保や活動場所の確保、連絡調整を誰が行うのか等、課題もある。
- (2)市によっては行政が指導員を雇い、研修もしっかり行っただうえで指導に当たるので、学校側としては安心して任せられた。
- (3)部活動をしたい教員も一定数いるので、勤務と切り離し、放課後は地域の指導者として活動に参加できるような制度があると、働き方改革に繋がるのではないか。
- (4)ガイドラインをしっかり守ること。そして部活動をする人としらない人に不平等感が生まれないように管理職が現場の雰囲気づくりをする必要がある。

### 3 指導助言

- (1)命の危険もある部活動を、教員の善意に押しつけてきたことが、最近やっと社会問題として取り上げられるようになった。しかし、「子どものため」という名のもとに、行政も学校も地域移行を進められずにいると感じている。行政が本気で制度を変えない限り地域移行は進まないで、もっと声をあげる必要がある。
- (2)ここ数年、中学校でも社会体育に所属する生徒が増えてきたが、その生徒たちの戦績等は学校に情報が入らないので、部活動の表彰は学校で行うが社会体育はなし。部活動と社会体育が両方あるうちは、同じ学校の生徒でありながら関わりに差がでてしまうことも問題である。

## 参加した分科会の提言について、意見や感想、参考になった点など

### 【1A】

- レポート作成は非常に大変ですが、提言者はそれぞれ考えさせる内容でとても感謝します。
- レポートのポイントで、教頭として何をしたらか、がはっきり提示されれば協議も深いものになると感じます。
- 小倉先生提言・地域との連携について、川添小の組織・具体的な連携方法を中心に、色々な学校の現状を知ることができた。
- 足立先生提言・足立先生の視野の広さがよくわかり勉強になった。校長の方針や職員の人数・年齢構成を考え、柔軟に対応する力が必要だと感じた。
- 他の市の先生方の教育課程の工夫や学校組織を動かす工夫がきけて参考になりました。
- 地域との連携や学力向上に向けた取組が中心のグループでの話し合いでした。教頭としてどのようなことを意識して進めているかなど、話を聞くことができました。その中での悩み等、話すことができて良かったです。
- 報告内容が整理されており、プレゼンも視覚的で、たいへん分かりやすい報告でした。二本の報告とも、本校の様子と重ねながら考えながら聞け、学習の場となりました。
- 教育課程に関する課題で、地域・保護者と連携・協働を深めるための校内組織・体制、持続可能な教育課程の編成、教頭として組織的な授業改善等の視点でグループでの話し合い、情報交換が参考になりました。
- 教育課程の円滑な遂行のための教頭としてしなければならないことが実感できた。
- 教頭の立ち位置に共感できる部分が多々あり、勉強にもなったし、元気ももらいました。参加して、とても良かったです。
- 指導助言者の言葉が温かく、力をいただきました。
- 教頭としての役割を皆さん強く意識して、地域との繋がりや授業改善に取り組んでいたのも、とても参考になった。
- それぞれの学校独自の取組があり、異動でメンバーが変わってもその取組を持続させていくためにはどうしたら良いか、に関する話し合いがとても有効だった。
- 地域との連携はとても大切であるが、教頭の調整が大変であることや地域とのつながりを作るためには数年勤務することが大切で、地域とのつながりを持っている教職員をコーディネーターとして活用することが有用であると感じました。また、教育課程については、教職員アンケートなどを教務と、研究主任など各種主任を結びつけることが大切であると感じました。

### 【1B】

- 教頭の業務が多岐に渡る中で、多くの先生方が教頭業務の合間を縫って授業等をされてると聞き、刺激になったが、働き方改革の点では逆行しており、難しい問題だと思う。
- ガイド学習は、複式学級だけでなく、通常学級でも取り組めそうであった。時間の生み出しを考えてみたい。
- 学校運営協議会や地域との連携は、小学校の方が定着している。中学校が、さらに取り組んでくれると広がって良いと思う。
- 極小規模校における授業改善は、新たな視点での取組であり、非常に興味深いものでありました。
- 久しぶりの参集で直接多くの話を聴くことができました。年々教頭職が多岐に渡っていて、負担が増えていると感じました。
- 県内の教頭先生方にとって有効な提言ができたかどうかは反省が残るが、極小規模校に勤務する教員たちが、時代のニーズに応えるためいかにアイデアを創造しているか、そして、どれだけ苦労しているかが少しでも伝わっていれば嬉しく思う。
- 南大分中の報告では、標準規模以上2校の小学校を抱える中学校側から、小中一貫教育へ向けた組織づくりを進めていることに価値があると感じた。主幹教諭やチームリーダーの役割は明確になっていると思うが、それを統括する教頭の役割が大きいことを想像した。
- 提言をもとに教頭としての関わり方についてグループで話したことが参考になりました。
- 学校規模の違いによる、学校運営協議会等の地域との連携について参考になった。
- 学校規模が異なると、なかなか議論が深まらず、情報交換程度で終わりました。
- 学校課題を解決する教育課程を考えるには、広い視野と発想の転換が必要だと感じました。
- 日常の業務が多忙を極める中、提言を作成する時間の捻出等をどのように工夫したのか。
- 複式授業の難しさや働き方改革の方向性など様々なことを考える機会となりました。教頭として本来取り組むべきことと、日々追われていることのギャップを強く感じました。
- 「ガイド学習の手引き」を参考にして、小規模校でなくてもガイド学習が行っていきけるものなのかと考えた。小中連携も地域によって捉え方、取組が違うのが印象的だった。
- 教頭のリーダーシップのあり方について、とても参考になりました。ありがとうございました。
- 私は大規模校に所属していますが、小規模校の苦労していることやそのためにどんな実践をしているかを

知ることができて、とても勉強になりました。

- 学校規模による教育課程の工夫や教頭としての関わりがよくわかった。地域との関係をどう取り組んでいるか等、交流できてよかった。

## 【2A】

- ミドルリーダーなどの人材育成を図るために、対話の時間を意識的に取ることが大切だと思った。
- 情報共有や人材育成等について、様々な観点から意見をいただき、参考になりました。できることからやってみたいと思います。
- 組織的な取組について、様々な学校の様子や悩み等を聞くことができた。
- 提言者の学校の取組も、大いに参考になった。2学期へ向けて、できることを準備していきたい。
- 組織的な対応について、本校の実践にも取り入れたいと思います。
- 教頭として、いかに情報共有しながら人材育成をしていくかで、いろいろ話ができ良かった
- 協議を通して、教頭として大切なことを再確認することができました。ありがとうございました。
- 組織づくりと情報共有、また人材育成について、たくさんご意見聞けてよかったです。
- 提言者をはじめ、お世話してくださった方々、本当にありがとうございます。改めて教頭の責任みたいなものを感じました
- 各郡市の教頭先生方と協議ができ、たくさん情報共有をすることができました。横のつながりが大事だと改めて感じました。
- 組織づくりと情報共有について参考になる報告だった。また、それをもとにグループで深い話し合いができて、たいへん有意義だった。
- 60点でいいじゃないかという言葉が印象に残った
- 小学校の提言では、組織として動いた事例に共感しました。中学校の提言では、初期対応のスピードの早さを自校でも取り入れられればと思います。早速、SSWさんへの対応を参考に動いてみます。
- 両提言ともに、これからの組織づくりへの参考になる素晴らしい提言でした。
- 不登校や問題行動の具体的な事案から、教頭の役割や組織的な対応について学ぶことができました。情報共有の在り方について早速2学期から実践しようと思います。
- 「情報共有と組織作りは表裏一体」ということを心に留めて、2学期からも頑張っていきたい。
- 教員の人間関係づくりと情報共有について、良好な人間関係ができていれば、情報もスムーズに共有されるということがよくわかった。
- 2つの提言と奥野校長先生の助言がとても勉強になりました。
- 情報共有、組織づくりについてグループ討議から考えを広げることができました
- 日頃から悩んでいることについて有意義な提言をしていただき、その後のグループ討議、指導講評も今後の参考になりました。ありがとうございました。
- 支援が必要な子どもを核に、組織的な指導支援体制をつくっている実践で、参考になった
- 教頭の役割について、改めてじっくり考える機会をいただきました。奥野校長先生の簡潔明瞭な指導助言をお聞きし、組織づくり（人間関係づくり）と情報共有の土台を子どもの姿から教職員で再度明確にして、丁寧に迅速に行っていきたいと考えました。
- 教頭は、人と人を繋ぐパイプ役に徹し、任せる所は主任や担当に任せることが大切ということ。組織づくりと情報共有はセットである。
- 2つの提言とも子どもを第一にきめ細かく継続的な取組がされていて参考になりました。特に職員間で短時間で効果的に情報共有するために1ペーパー報告というのは早速使わせていただきます。
- 全体での情報共有は、教頭の大きな役割であり、そのための方法（ワンペーパーでのお知らせ、職員朝会の活用）や関係機関との連携、スピード感など、自分も意識していたつもりで、徹底できていない点を改めて気づかされました。
- 学校規模の違いによる学校運営協議会等、地域との連携について参考になる点が多かった。

## 【2B】

- 組織的な対応について、具体が示されていてとても参考になった。
- 教頭として、どう考え行動すれば良いのかということをもとに協議でき、大変有意義だった。
- テーマについて様々な考え方に触れ良い学びになりました。これからの参考になりました。
- 教頭としての役割について様々な視点で考えることができた。
- 2本とも忙しい中にも関わらずためになる実践を発表していただいた。感謝したいです。本校で活用できるものは早速活用していきたいと思います。
- それぞれ、市町村、学校規模の違う方たちと話ができとても良かったです。特に一年目の自分にとっては、抑えるべきところがなんなのか基本的なところでの気づきが多かったと感じました。
- 特別支援で学校に持ちこめるところがあり、校内体制を見直したいと思いました
- 2つの提言のうち、1つは前任校のことだったので、今年の様子などを聞いて、感慨深かった。また、教頭としてどうすべきかを、グループ協議の中でいろいろと話すことができた。
- 居場所づくりについて特別な配慮を必要とする子どもの居場所とは何か考え直す機会になりました。
- 子どもの居場所作りのための関係機関を含めた校内体制の構築、コーディネーターの人材育成
- それぞれの学校の特性を生かして、関係機関や保護者とつながる役目を果たしているんだと感じた。
- 配慮や支援が必要な児童生徒に、組織的に対応することの大切さ、関係機関との連携について改めて学ぶことができた。
- ケース会議の持ち方、若手教職員が主任になった場合の対応など教頭としての対応などをグループ討議することで多くの学びがあった。



- 提言が同じ内容なので、話し合いの深まりをどうするのか苦労しました。また、参加者の学校規模が違うので、共通点を見つける難しさもありました。
- 今後、若い職員が多くなり、ミドルリーダがいなくなる状況が考えられますが、持続可能な組織体制をどうするかが課題だと感じました。
- 学校が変われば、もっと言うと、校長先生によって、学校の体制は変わってきます。その中で、持続可能な体制を作り、運用していく教頭先生方の苦労が感じられました。
- 人材育成や校内での役割分担など同じような悩みを出し合い、意見交流ができてとてもよかった。
- 不登校や特性のある生徒に教頭としてどのように関わっていけば良いのか、とても参考になった
- 提言を行いました。自分自身の教頭としての取組を振り返ることができたことと、今後の勤務校での新たな取組を確認することができました。
- 支援を要する子どもほどの学校にも必ずいるので、支援の在り方等、とても参考になりました。  
ケース会議の持ち方、その後の指導について
- 他都市の方との意見交換は、自分のあり方を見直すきっかけとなった
- 都合で分科会に参加できませんでしたが、子どもの発達に関する課題についての提言は、本校と重なるところが多く共感しました。また、改めて、チームとして対応することの必要性を感じました。

### 【3A】

- 時間の生み出しと勤務改善、主任を軸に不登校対応を教頭の指導で進めていく。
- ビジョンの共有などが教頭の仕事であり、目指す子ども像の実現になくはならない。
- いろんな地域の先生方と意見や情報を交流できてとても刺激になったし、勉強になった。参集の大会ができてよかったです。
- 組織マネジメントやタイムマネジメントについて多様な学校状況での工夫が共有出来た。
- 校時の前倒しなど、参考になりました。
- 教育効果の低い取組のカットすることによって成される教育環境整備
- 小中一貫教育の取組は、本市も生徒数が年々減少し小中学校の統廃合を検討されているのでとても素晴らしい取組だと思いました。
- 午前中5時間授業や週2回清掃など日程の工夫がとても参考になりました。
- 小規模校が増えてきている中、小中一貫教育を進めて学校を残そうという考えは、共感できた。  
しかし、その課題は山積みで、本当に一貫教育を進めることが、子どもたちのためになるのか、疑問に思うことが増えたのも事実である。
- 小学校と中学校では、違いがたくさんあるので、小中一貫教育校は小・中で折り合いをつけなければならぬことが多いので、教頭の役割が大きいと感じた。
- 各都市地域の小規模の小学校とその中心になる中学校との小中連携の難しさとさらなる必要性をあらためて実感しました。平成28年に文科省が策定した『小中一貫した教育課程の編成・実施に関する手引き』通りに現在の小中連携はほぼ行われていると思いますが、いろんな実態を抱えている各都市地域の学校にとってそれぞれの最適な小中連携とは一体何かをあらためて考える必要があると思いました。
- 地域との連携のあり方や、近年増えている小中一貫校について、とても参考になりました。
- 日課表の工夫や地域との関わりなどの取組が大変参考になりました。
- 校時の工夫や地域との関係づくり等参考になりました。
- 教頭として、地域人材を十分に活用しながら、学校運営を行っていることや校時の工夫など参考になりました。
- 職員間の連携、主任との組織的な運営、小中一貫教育における連携・協力などとても参考になることが多かったです。
- 学校環境について再考させられるところがたくさんあり、取り入れていきたいと思った。
- 学校実態の分析や改善の視点について、参考になる提言だった。
- 小学校と中学校の違いなどをグループで話すことができて大変有意義であった。
- 地域との連携や人材育成などの話題で意見交流ができて、参考になった。

### 【3B】

- 組織で動く為の教頭の役割や、学校教育目標の具現化の為の教頭の役割のヒントをたくさん得ることができた。
- 働き方改革に繋がる良い提言がありました
- 教育環境の整備について、校種ごとの工夫を知ることができました。勤務校に持ち帰り、できることから実践していこうと思います。
- 提言の内容が、教頭の関与性の表れたものであったので、自分事に置き換えて考えを深めることができました。
- 提言を受けてのグループ協議では、各学校ごとの意見交流ができて参考になりました。
- 職員の人材育成やモチベーションアップと働き方改革の方策について得ることができた。
- 提言された先生の学校での教頭としての役割がとてもよく見えて、勉強になりました。指導者の校長先生の助言がさらに参考になりました。
- 各都市の先生方からの交流ができたこと。取り入れて実践したい内容があり、参考になりました。特に、板書をロイロノートにあげて、子どもたちがいつでも見れるのは、良いと思った。
- 笹島教頭先生の率先したリーダーシップと人材育成の実践を今後に生かさせて頂きたいと思います。
- 教育の情報化という点で、板書をタブレットで撮影して共有アプリに保存して、生徒も教職員もいつでも自由に見られるようにした取組が大変参考になった。また、学校経営PTも有効だと感じた。



- 今回、提言の機会をいただきました。提言を行うことで私自身の取組に対しての意識の高まりを感じ、大変よい勉強になりました。
- 学力向上やミドルアップマネジメントの実現に向けて、共通理解をして取り組んでいる点が参考になった
- 竹田市の取組を発表させていただいた。グループ協議では、様々な地域で実践されている取組を意見交換することができた。
- 教頭としてどのようにタイムマネジメントしていくか参考になりました。
- レポート内容はもちろん、その後の協議で、各地域の取組などを聞いて大変参考になった
- 職員の縦の連携と横の連携が大切であり、その中心にいるのが主任である。時間をつくっても職員同士のつながりがなければ働き方改革につながらない。
- 効率的な時間の生み出しという点で、発表者の学校はもちろんですが、グループで集まった先生方の学校や市町村の実践を交流することができたのが良かったです。
- 小規模校ならではの悩みと協働性を高めるための取組を知ることができました。改めて地域の特徴を知らなければ学校経営に活かしていけないことが分かりました。
- 教務との連携で校長と職員をつなぐ役割や授業改善を進めていく場合の教頭の役割について、各学校の取組を聞き、参考になった。

#### 【4A】

- 働き方改革や人材育成について、新たな気づきがあった。一人職の教頭同志の思いや悩みを共有できた。
- 2学期制のメリットと働き方改革推進の取組。若い職員の育成に向けての姿勢や、責任の分担と自覚の大切さ。以上の2点は参考になり、有意義だった。
- 提言を受けて、働き方改革や人材育成について、グループ協議の中で他地域の様子や苦労が聞けました。ヒントや元気をもらえました。
- 働き方改革は、はたらきかけ改革と言う発想や、3つの共有が大事、課題の共有化、取組の共有化、成果の共有化今回学んだ事を早速、職場でためてみたいと思いました。
- 他都市の期末整理期間におけるカット時間等の削減の仕方がわかり参考になりました。提言が小学校2本だったので、他の分科会のように中学校の発表も聞いてみたかったです。また、グループ分けも小学校の教頭さんの中に、1人だけ中学校だったので、他の中学校の様子などの情報交換ができずに残念でした。
- 2学期制について、色々なことが知れてとても良かった。利点がたくさんあることがわかった。
- 同じ立場の教頭と話すことにより、共感したり、元気をもらったりしました。
- 働き方改革・若手教職員の育成と、日頃から取り組まなければならない課題で、レポートからの提言、グループ討議ともに大いに学びとなる会でした。
- 2学期制のメリットや若手教員の育成について意見交換ができてよかった。
- 2つの学校(都市)の提言を聞いて、これからの自身の仕事に取り入れられるものは取り入れようと思いました。
- グループで話し合ったことで、日頃の悩みなども話せてよかったです。
- 2学期制の取組が参考になりました。働き方改革を押し進めるためにも委員会を含めた改革が必要であると思います。現場だけでできることには限界があります。細かな調整も必要ですが、大幅な授業カットや部活動の確実な地域移行等、ハード面での改革を進めていきたいです。
- 別府市立上人小学校の「人材育成の在り方」、大変参考になりました。
- 2学期制の導入について、20年前の日出町が導入した際の議論を思い出しながら、本来の意義、目的を振り返る機会となった。
- 授業時数の調整について対応が様々あることがわかり、視野が広がった。
- 津久見市の2学期制への移行でも別府市の人材育成でも、働き方改革を踏まえながら取組をされていたので、参考になる部分は自分の学校でも実践していきたいと思いました。
- 課題・取組・成果を共有していくこと、次の人材育成を行うこと、この2点の大切さをあらためて実感することができました。2人の提言者の方におかれましては、多忙な中、私たちのために、具体的事例をシェアして頂きまして、ありがとうございました。
- 管理職として、教職員と課題、取組、成果を共有することが大事であることを学んだ。
- 働き方改革及び人材育成についてのご提言をいただき、たいへん参考になりました。同職種ならではの意見交流ができ、とても充実した研修を受ける機会になりました。

#### 【4B】

- 働き方改革も地域との連携も、大切な課題であり、また解決の難しい問題です。その一助となる貴重な意見を聞かせていただく良い機会となりました。ありがとうございました。
- 鶴崎踊りと言う県内でも有名なお祭りでさえ、地元がなんとか頑張って継続している事、学校が教頭が担う役割が大きい事を知りました。他の地域の教頭の仕事内容が知れて良かったです。
- 他校・他都市の教頭と様々な事例について意見を交流することができ、自分の業務を行う上で大変参考になりました。
- 仕事への向き合い方について大変参考になりました。
- 働き方改革について、教職員の意識改革が何より大切だと感じた。
- 地域伝統行事であっても、学校と切り離して発展させていく方策を探っていくべきだと感じた。
- 時間の捻出の仕方、職員との情報共有の方法など参考になる事例があった。
- これからの地域連携（CS）について、たいへん参考になりました。
- 教頭として超勤時間の削減にどのように取り組めばよいか。
- 働き方改革について、他都市の教頭のみなさんと意見交換できたことは、非常によかった。教頭としての

困りを出せた部分もあり、共有できた気がする。

- 学校の規模や様子等について、本校との共通点が多々あったので、働き方改革を実践していく上で、大変勉強になりました。特に労働環境の改善の中の授業コマ数の点検に関する内容は、今後に向けてとても参考になりました。

#### 【5A】

- ミドルリーダーの育成や実践的な避難訓練などで参考になりました。
- 昨日の地震発生時の自分の行動を振り返って、防災に対する危機管理能力向上の取組は、子どもたち、教職員に対して教頭としての関わりについて、とても参考になりました。命を守るためにまずは自助の力を育てる必要性を感じたので、危機管理マニュアルの見直しをしていきたい。
- 教職員の専門性を活かした資質・能力向上を図るための取組についての発表の中にあつた、指導方法の助言のために設置した「おたすけコーナー」。ホワイトボードを使って、職員間で困りを共有できて、助け合いの場、協働の場となるようにしているので、ぜひ参考にしたいです。
- 自分ごとととらえて行動する防災訓練については、図上訓練と予告なし訓練を行った事例を発表していました。私は、今週始めに、東日本大震災で地震・津波の被害にあつた宮城県石巻市の門脇小学校と大川小学校を訪れたばかりだったので、自助の力を子どもたちにつけさせる取組の大切さを改めて考えることになり、参考になりました。
- 「お助けコーナー」の設置という誰でも気負わずに書き込み、誰でもそれに応える体制を作ったところに、柔軟さを感じ、参考としたいです。
- 危機管理能力向上のための取組について、学校の立地環境を知り、従来の型から変え、考えさせることに重きを置いて実践されていた。児童生徒にとってやらされる避難訓練ではなく考えて行動する力をつける訓練を取り入れることも大切だと感じた。お疲れ様でした。
- 各学校の危機管理の様子が分かり、大変参考になった。
- 学校規模の違いにより、そのまま活用できるわけではないが、取組や姿勢には学ぶべきことが多かったです。
- 私は一年目なのでただ単に普通の業務にプラスしてこれだけのレポートを書いて下さった全てのレポーターさんに敬意を表します。
- 前日のこともあり、危機管理について、ご提言をもとに、またグループの方々の様々なご意見から、管理職としての対応を具体的に考え直すことができました。

#### 【5B】

- ICT活用をどう進め、どう働き方改革に繋げていくか？まだまだ自分の未熟さを痛感しました。
- ICT活用と部活動改革という切り口での提言でした。各自治体の取組の情報交換ができました。また、日頃学校の外に出ることが少ないので、教頭としての情報交換ができ有意義な時間となりました。
- ICTの生かし方が参考になりました。また、話し合う中で、デジタルとアナログ、両方の長所があり、どちらも大切にしていかなければならないことも再確認できました。
- 「働き方改革」に関連づけて、「ICTのこと」「部活動のこと」という課題を提起していただき、議論できたことは有り難かったです。働き方改革の目的は、「自分自身が生き生きと働くため」だと思います。その実現のために、必要なところはしっかりと行政に声を届けていくことが大事だと思います。
- 「働き方改革は誰のため？」という問いに対し、「子どものため」という回答をしているうちは働き方改革は進まないという意見があり、その通りだと感じた。子どものためにできること、やってあげられることはエンドレスに出てくるが、どう割り切るか、そして教員が献身的に働くだけでなく、自分の人生を楽しむ姿を子どもに見せることも、子どもの近くにいる大人として、大事なことだと思う。
- 働き方改革につながる一本目の提言は、教育DXというのか、先進的な校務支援システムを紹介してもらい、現在の自分たちの状況を振り返り、今後どうあるべきかを考えさせられ、大変参考になった。学校規模と自分の学校にあつたICT支援として、取り入れていきたい。
- 働き方改革につながる二本目の提言は、自分とは違う中学校種の最大の課題である部活動のことであつた。地域移行や外部人材の活用が難航する現状の中で、仕事量の均等化に着目した学校内での工夫した取組が参考になった。小学校種でも、その視点を取り入れていきたい。
- ICTによる働き方改革と、部活動の在り方を考える働き方改革の2つについてとても参考になった。
- この2つは働き方改革に大きな影響を持つものとされているが、なかなか進まないのが現状である。工藤先生と大江先生のお話、更には田邊校長のお話がヒントになるのではないかと考えられた。
- 学校に合った校務支援システムの活用が重要である。全教職員が活用できるようにするための研修が必要である。
- 小学校に部活動の現状を知らせることができた。
- 働き方改革につながる具体例をもとに、校種や市町村の取組を交流でき、大変有意義だった。
- ICTに関しては、得意な人に頼るのではなく、全体的な向上が必要。部活動に関しては、制度的に国・県が主体的に学校現場から隔離するようにはしなければならない。
- ICTの活用により働き方改革につながるヒントをたくさんいただきました。
- ICTの活用や部活の持ち方など管理職として教頭が率先して業務改革をされている姿に刺激を受けました。
- 働き方改革に関する新しい情報を入手することができました。
- 各校で、今最も課題となっている課題であり、とても参考になりました。

## あ と が き

本大会は、第13期全国統一研究主題である「未来を切り拓く力を育む 魅力ある学校づくり」の2年次として開催いたしました。

昨年度の大会が久しぶりの参集型開催の予定でしたが台風の影響により誌上開催への変更を余儀なくされ、いよいよ今年度、で迎えたはずの前日夕方に日向灘を震源とする地震が発生し、県内に不安と緊張が走りました。それらを乗り越えて、などと安易に申し上げるべきでないと思っておりますが、満を持しての開催となった本大会は多くの会員が集まる、実り多きものとなりました。

全体会では、地域の教育者・久留島武彦の功績を研究し、精力的に広めてこられた金 成妍（キム ソンヨン）氏によるご講演により、私たちはあらためて教育の原点を考えることができました。この先人の掲げた「信じ合うこと 助け合うこと 違いを認め合うこと」は、今も根底に流れ、また未来にも通じるテーマといえます。分科会では、「教育課程」「子どもの発達」「教育環境整備」「組織・運営」「教職員の専門性」の5つの研究課題について、提言者の貴重な報告をもとに、10の各分科会で活発な討議が行われるとともに、休憩や移動の間には笑顔で交流を深める様子も見られました。本大会は、提言者の皆様のご努力、玖珠郡教頭会の皆様の綿密な計画と運営などにより支えられて成功したと言ってもよいと思います。あわせて、県教頭会全体で3C（継続性：continuity、協働性：collaboration、関与性：commitment）に焦点を当てた実践的研究を、昨年度を含めた「参集できなかった」期間にも途切れさせなかったからこそ、さらなる成果を積み上げることができたのではないのでしょうか。

この大会をステップとし、来年度は第13期全国統一研究主題の3年次、そして九公教（九州地区公立学校教頭会）大分大会となります。教頭会の基本方針には「副校長・教頭の職務内容や職務機能と追求する」「学校教育の課題の解決に努める」と位置づけられていますが、まさにこれを、私たち一人一人が日々実践していくことこそが来年度の大会の軸となっていくものと思われれます。

最後に、大会開催にあたり多大なご指導・ご支援をいただきました大分県教育委員会、大分県小学校長会、大分県中学校長会に厚くお礼を申し上げますとともに、大会成功に向けご尽力いただいた玖珠郡教頭会の皆様に深く感謝いたします。誠にありがとうございました。

大分県公立学校教頭会

研究部長 上田 哲也

玖珠町豊後森機関庫公園（上）：旧国鉄久大線を走るSLの格納庫として建てられ、現存する扇型機関庫としては九州唯一の近代化産業遺産である。

九重“夢”大吊橋（下）：長さ390m、高さ173m、幅1.5mのこの橋は、歩道専用として『日本一の高さ』を誇る吊橋。遠くに「くじゅう連山」が横たわり、「天空の散歩道」と呼ばれている。